

## 平成30年度研究報告書

# 乳児院養育の可能性と課題を探る －現代発達科学的視座からの検証－

研究代表者 遠藤 利彦 (東京大学大学院)  
共同研究者 横川 哲 (麦の穂乳幼児ホームかがやき)  
都留 和光 (二葉乳児院)  
三宅 愛 (日本赤十字社医療センター附属乳児院)  
平田 悠里 (東京大学大学院 教育学研究科)  
南山今日子 (子どもの虹情報研修センター)  
協力 平田ルリ子 (清心乳児園)  
全国乳児福祉協議会

社会福祉法人 横浜博萌会

子どもの虹情報研修センター

(日本虐待・思春期問題情報研修センター)



平成30年度研究報告書

乳児院養育の可能性と課題を探る  
— 現代発達科学的視座からの検証 —

社会福祉法人 横浜博萌会

子どもの虹情報研修センター

(日本虐待・思春期問題情報研修センター)



# 目 次

I. 乳児院のアセスメントの重要性	1
1. 乳児院入所児を取り巻く状況	1
2. 乳児院のアセスメント機能の重要性	1
II. 乳児院におけるアセスメントの実態と課題:2017年度研究より	3
1. アセスメント領域の課題	3
2. 記録方法に関する課題	3
III. 前年度の調査を踏まえたアセスメント票の試案	5
1. 試案するアセスメント票の特徴	5
2. アセスメントの試案と内容	5
IV. 全国乳児福祉協議会大会での試行実施	7
1. 目的	7
2. 方法	7
3. 結果	8
4. 考察・試案の改訂の方針	12
V. 乳児院での試行実施	14
1. 目的	14
2. 方法	14
3. 結果	15
4. 考察	30
VI. 限界と展望	36
VII. 引用文献	37

## 付録

1. 付録1 発達票試案
2. 付録2 試行実施用 発達票サンプル
3. 付録3 最終修正版 発達票サンプル (A票, D票)



# I. 乳児院のアセスメントの重要性

## 1. 乳児院入所児を取り巻く状況

平成 30 年 3 月時点での乳児院の定員数は 3,900 名であり、平成 25 年度時点で乳児院に入所している子どものうち 35.5%の児に被虐待経験がある（児童養護施設入所児童調査結果、平成 25 年 2 月 1 日）。また、乳児院入所児の心身状況として障害ありとされている児は平成 25 年度時点で 28.2%に上り、罹患傾向については 65.3%の児があるとされている（児童養護施設入所児童調査結果、平成 25 年 2 月 1 日）。このように乳児院においては特別なケアを要するケースが多く占めており、入所する児を取り巻く状況は深刻化していると考えられる（乳児院の将来ビジョン検討委員会報告書、2012）。

## 2. 乳児院のアセスメント機能の重要性

このような状況下で乳児院の担う子どもの状態のアセスメント機能の必要性は一層増していると考えられる。

### (1) 乳児院のアセスメント機能向上への社会的要請

平成 28 年の児童福祉法等の一部を改正する法律において、永続的解決のために子どもが家庭における養育環境と同様の環境下において継続的に養育されるよう家庭養育優先の原則が明記されると同時に、これまで子どもを保護し養育する役割を担ってきた乳児院などの施設は、その専門性を生かし、高機能化および多機能化・機能転換を行うことが求められている（「乳児院・児童養護施設の高機能化および多機能化・機能転換、小規模かつ地域分散化の進め方について」、平成 30 年 7 月 6 日）。このような乳児院の担うべき機能として『乳児院の将来ビジョン検討委員会報告書』（全国乳児福祉協議会、2012）においては「一時保護所機能」「専門的養育機能」「親子関係育成機能」「再出発支援機能」「アフターケア機能」の義務機能が挙げられているが、これらの支援の展開の基盤に通時的なアセスメントがあると考えられている。実際『新しい社会的養育ビジョン』（新たな社会的養育の在り方に関する検討会、2017）においては家庭養育優先の原則の方向性を示すとともに、乳児院の担うべき専門性の 1 つとして一時保護の際の親子関係に関するアセスメントや障害等特別なケアを必要とする子どもに対するアセスメントが挙げられている。

### (2) 特別なケアを必要とする子どもたちの支援のためのアセスメントの必要性

アセスメントとは、支援の対象となる者を総合的に理解することを通して支援の方向性を決定するために行われる測定と評価である。増沢（2016）によれば、行動観察や生育歴、家族状況、医学的所見、心理検査等の情報を総合的に把握し、支援の対象となる児の問題の本質を理解し、今後の支援過程を予測しながら、支援方針をたてることである。また、本郷（2015）によれば、アセスメントは人を理解する側面と人の行動や発達を予測する両側面があり、それに基づき支援の方法を決定するために行

われる測定・評価である。

とりわけ被虐待経験や障害をもつ子どもたちが入所する乳児院においては、発達レベルのばらつきがあるとともにその問題の複雑性も高いと考えられる。そこで、それぞれの固有な問題や個別のニーズを把握し、支援を行っていくためにはアセスメントは必要不可欠であり（全国乳児福祉協議会，2012），乳児院での専門的な支援は子どもの綿密なアセスメントと表裏一体でなされるものである。

### **（3）乳児院の養育を正当に評価することと課題を明らかにすること**

アセスメントは、支援のために必要不可欠だけでなく、支援の展開過程を通じての経時的なアセスメントの実施は、支援を評価するためにも重要である。本郷（2015）によれば、アセスメントは支援方針を決定するためだけに用いるのではなく、支援の後に子どもの状態が改善したか、問題行動が増えていないかなど、支援の妥当性を評価するためにも用いられる。乳児院での養育は、今後一層家庭での養育が難しい子どもに向けたものになっていくと考えられるが、乳児院での養育が確かに子どもの支援につながっているかを正当に評価することで、これまで子どもの保護と養育を担ってきた乳児院の専門性や意義を明らかにするとともに、課題を明らかにしていくことで、その専門性を発展させることが可能になると考えられる。



## Ⅱ. 乳児院におけるアセスメントの実態と課題：2017年度研究より

このような問題意識の下、2017年には乳児院におけるアセスメントの実態調査を行った。詳細は、2017年度の報告書を参照されたいが、ここでは乳児院におけるアセスメントの実態と課題に関して実態調査から明らかになったことを簡単にまとめた上で、本年度の研究で試案したアセスメントの方向性を示す。全国の137の乳児院に調査を依頼し、116の施設からの回答があった。調査では、アセスメントにあたって使用する用紙や発達検査の送付を依頼し、そこでの設問をベースに入所時点・入所中・退所時点で把握されている情報をコーディングした。

### 1. アセスメント領域の課題

子どもの身体的側面や心理的側面の「生活習慣」に関する部分は多くの施設で項目設定がなされ、入所時点・入所中・退所時点で通時的にとられていることが多かったが、その他の心理社会的側面、とくに情動発達、二項関係発達、社会性の発達、アタッチメントの形成、自己発達や恐れ・不安などについて項目設定を行っている施設は少なかった。もちろんこの結果は、乳児院で心理領域に関するアセスメントが全くなされていないことを意味するものではない。2017年度調査は、項目設定のみを見て、当該領域についてアセスメントを行っているか否かを判断するものであり、実際には自由記述の形で綿密に対象児の心理的側面に関して記述・アセスメントがなされている可能性は十分にあるのだろう。しかし、心理的側面の観察が容易ではないことを考慮するならば、後述するように、自由記述という記録方法の課題と相まって、子どもの心理・関係的側面の項目設定がなされていないことは、その領域のアセスメントがなされないことや、記録者によってその精度にばらつきが出てしまうことにつながると考えられる。

### 2. 記録方法に関する課題

ほとんどの乳児院が自由記述を主としたアセスメントを行っていた。自由記述は、対象児についての情報を綿密に深く収集し記録できるという特徴があり、個々の特徴を持つ子どもの個別的な状態像やニーズを捉えていく上では適した記録方法であると考えられる。また、1つ1つの行動項目を設定してそれを評定していく方法と比べて、子どもについての情報が表面的にならないという利点があると考えられる。こうした綿密で分厚い自由記述に基づくアセスメントは、子どもの支援にあたっては重要な役割を果たしていると考えられる。

しかし、自由記述でアセスメントを行う場合、何に注目し何を記録するかという点は記録者にゆだねられており、それは経験年数や力量、研修の体制や参加状況などの記録者の状態に左右され、必然

的にアセスメントされる子どもの状態像にばらつきがでてくるということを意味すると考えられる。また、自由記述の重要性は認めつつも、そのみのアセスメントが孕む問題としては、複数時点での子どもの状態像の比較が困難であり、また全国で統一して、ある養育体制下にある乳児の発達の軌跡がどのようなものであるか、検討できないという問題点がある。定量化可能で複数時点での比較が可能なアセスメント方法として発達検査があるが、2017年度の実態調査によれば、入所中の新版Ⅸ式発達検査や遠城寺式発達検査の使用について言えば5割を超えていたが、入所時と退所時に限って言えば発達検査の使用は2割以下の施設にとどまっており、通時的な発達検査の実施はなされていないことが示唆される。

このことは個々の子どものアセスメントに基づく支援が妥当なものであったかを第三者からは確認できないことを意味しており、また乳児院養育の専門性の意義と課題を明らかにできないことにつながるだろう。これは自由記述によるアセスメントの価値を否定するものではなく、その意義を認めつつも、綿密な記録に合わせて行動観察ベースの細かい項目設定を行い、定量的に子どもの発達を捉える必要性を唱えるものである。

### Ⅲ. 前年度の調査を踏まえたアセスメント票の試案

#### 1. 試案するアセスメント票の特徴

以上を踏まえ、以下の特徴を持ったアセスメント票を作成することとした。

- A) 子どもの心理社会的な発達や子どもの PTSD 反応の有無およびその変動や子どものアタッチメント形成について捉えることができる発達票を作成する。
- B) 数値化可能な発達票を作成する。
- C) 子どもの状態像の変化を捉え、乳児院での養育実践とどのように関連するか明らかにすることが重要であるため、入所時から入所中、退所時に至るまでの複数時点で実施することができるアセスメント票を作成し、複数時点での実施を行う。
- D) 行動指標での評定が可能にならなければ、記録者のつけにくさにつながるとともに、アセスメントの信頼性が担保されない。そこで本発達票では行動観察を原則とし、行動指標の評定基準を設けた発達票の作成を行う。
- E) 子どものアタッチメントに関しては、関係性を観察できる人がアセスメントの実施を行うべきであるため、担当養育者や、子どもの関わりや子どもの発達を観察できる人をアセスメントの実施者とした発達票を作成する。

#### 2. アセスメントの試案と内容

アセスメント領域は Table Ⅲ -2-1 のようであった。それぞれの内容の詳細については、2017 年度報告書を参照されたい。

Table Ⅲ -2-1. アセスメント票の内容

アセスメント票	内容	アセスメントガイド項目
心理社会的発達		
①二者関係の発達	人一般への指向性、特定の他者の選好、特定の他者のアタッチメント対象としての利用	情緒 担当養育者との関係性
②社会性の発達	特定の他者以外の大人や子どもへの指向性や関わり、対人間葛藤や葛藤中での解決法の発達	情緒 子どもとの関係性
③社会的認知	他者の心の理解の発達、共同注意行動の発達や象徴遊びの発達	
④情動発達	快不快から嫉妬や誇りなどの複雑な情動の発達、情動理解、情動調整発達	情緒
⑤自我発達	身体的な自分の認識、鏡に映った自分の理解、他者から注意を向けられる自分の理解、自己主張とその調整の発達	情緒 自己意識

アタッチメント		
①アタッチメント行動チェックリスト	アタッチメントの安定性。子どもが不安・恐怖に陥った際に、重要な大人を頼ってその状態を回復できるか、遊びなどの際に重要な大人を利用して、怖いことがあった時はいつでも大人を頼ることができるという安心感の中で探索行動を行えるか。	担当養育者・保護者との関係性
②アタッチメント障害アセスメント	アタッチメントの未成立。反応性アタッチメント障害および脱抑制型対人交流障害	担当養育者・保護者との関係性
③無秩序型アタッチメントアセスメント	アタッチメント対象に対する回避と接近の両立。特定の大人に面しておびえる様子をみせたり、固まってしまうたり、うつろな表情を見せる。	担当養育者・保護者との関係性
子どものSOSサイン		
①トラウマ反応	多様な場面で現れる子どものトラウマを示唆する行動（特定の場面で強く泣く等）	身体的・心理的・関係性全般
②SOSサイン	身体、心理、関係性に表れる子どもの気かりな行動	身体的・心理的・関係性全般

なお、子どもの月齢によってアセスメント票に含まれる内容が異なり、Table III -2-2 のようであった。また、アセスメント票の試案を付録1に添付する。

Table III -2-2. 各アセスメント票の内容

	①心理社会的発達	②トラウマ	③子どものSOSサイン	④アタッチメント
A：0 - 6ヶ月未満	○	×	○	×
B：6 - 10ヶ月未満	○	○	○	×
C：10ヶ月 - 2歳未満	○	×	○	○
D：2 - 4歳未満	○	○（2 - 6歳用）	○	○

## IV. 全国乳児福祉協議会大会での試行実施

### 1. 目的

試案したアセスメント票を実際に乳児院で勤務する職員に実施してもらい、アセスメント票や項目について幅広くヒアリングを行うことを目的とした。

### 2. 方法

#### (1) 参加者

全国乳児福祉協議会研修会のワークショップ参加者である乳児院で勤務する職員 82 名を対象に、アセスメント・シートの試行実施をワークショップの一環として依頼した。また、それぞれの参加者には事前にアセスメント票の実施の対象となる児を決めてきてもらい、可能であればその子どもについての記録なども持参することを依頼した。

#### (2) 手続き

全国乳児福祉協議会研修会のワークショップにて、乳児院の養育実践におけるアセスメントの重要性を述べるとともに、本ワークショップの目的について、試行実施を通して広くアセスメント票への意見を収集し改訂に生かすことと説明した。またワークショップ内でアセスメント票の手引き・マニュアルを配布するとともに、回答の仕方を説明した。

ワークショップの進行は、アセスメントの重要性の説明を行った後に、グループごとにアセスメントの重要性について話し合い、その後アセスメント票の説明と実施を行った後に、グループごとにアセスメント票の試案の改善点についての話し合いをしてもらい、その後全体で発表を行った。

#### (3) アセスメント票についての意見の収集方法

アセスメント票についての意見は、以下 3 つの方法を通して収集した。

第 1 に、アセスメント票のそれぞれの項目の回答欄の横に、各項目についての意見を記入するための自由記入欄を設けた。

第 2 に、アセスメント票のセクションごとに、全体を通しての意見を記入するための自由記入欄を設けた。

第 3 に、グループでの話し合いの経過を一枚の紙にまとめてもらい、それを収集した。

#### (4) 倫理的配慮

子どもの虹情報研修センターの倫理審査委員会の承認を受けた上で実施した。また子どもの生年月

日を収集する代わりに入所時の年月齢とアセスメント票実施時の年月齢の記入を依頼した。

### 3. 結果

#### (1) アセスメント実施者およびアセスメント対象児の特性

アセスメント票の実施者の職種は保育士が41名と最も多く、次いで心理士9名、ファミリーソーシャルワーカー (FSW) 8名であった (Table IV -3-1)。乳児院での勤務年数は平均9.9年 (標準偏差8.85年) であった。Table IV -3-1に職種ごとの平均年数と標準偏差を示した。

Table IV -3-1. アセスメント実施者の職種と乳児院での勤務年数

職種	人数	平均年数	標準偏差
保育士	40	9.7	8.82
看護師	4	9.8	8.42
児童指導員	0	-	-
FSW	8	12.3	9.42
里親支援専門相談員	3	12.3	5.03
心理	9	4.1	3.96
個別対応職員	1	13	-
その他	8	-	-
不明	6	-	-
その他内容			
保育士・個別対応職員 (1) 看護師・FSW (1) 施設長 (4) 栄養士 (1) 事務 (1)			

注) FSWはファミリーソーシャルワーカーの意

アセスメント票の対象児の性別は女児37名、男児44名、不明1名であった (Table IV -3-2)。対象児の記入時の平均日齢は432.6日 (標準偏差=430.77, Range 3-3276) であり、入所時の平均日齢は140.7日 (標準偏差=287.88, Range 1-3276) であった。Table IV -3-2に各アセスメント票への割り当てを示した。

Table IV -3-2. アセスメント対象児の男女ごとの各アセスメント票への割り当て人数

	A票	B票	C票	D票	計
女児	3	1	14	19	37
男児	3	4	11	26	44
不明	1	0	0	0	1
計	7	5	25	45	82

子どもの入所理由については、虐待を主要な理由とする児が最も多く、次いで家族の精神疾患を主要な理由とするものが多かった（Table IV -3-3）。虐待の種別については Table IV -3-4 にまとめたが、身体的虐待とネグレクトが多かった。子どもの心身状況については Table IV -3-5 にまとめた。

Table IV -3-3. アセスメント対象児の入所理由

主な入所理由	人数
家族の死亡	0
離別別居	1
家族の受刑（拘留）	0
不法滞在	0
家族の就労	0
経済的困難	11
虐待	30
家族の疾病	3
家族の精神疾患	17
家族の知的障害	7
出産	1
出張・研修	0
冠婚葬祭	0
家族の疾病付き添い	0
児童自身の障害・疾病	0
母未婚	5
その他	4
不明	2

Table IV -3-4. アセスメント対象児の虐待種別

虐待種別	人数
身体	16
心理	8
性的	0
ネグレクト	15
不明	3

Table IV -3-5. アセスメント対象児の入所時における心身状況

子どもの心身状況	人数
健全	42
病弱児	13
障害児	11
被虐待児	21
その他	3
不明	1

## (2) 収集されたコメントの要約

収集されたコメントの要約を Table IV -3-6 に示した。

Table IV -3-6. アセスメント票へのコメントの要約

1. 記入時の年齢と項目のずれと年齢幅
  - (ア) 年齢幅が大きい→もっと刻んだ方がよい
  - (イ) 発達がゆっくりな子どもに対しては、項目の年齢がずれる
  - (ウ) 質問紙の内容によっては、項目が幼すぎたり / 難しすぎたりする→ずれ
  - (エ) 通過基準月齢の目安をつけるとよいのでは
2. 現在できること・過去できたこと・できない・判定不可の区別が難しい
3. 観察者・大人・担当養育者の区別が難しい
4. 誰が評定するか
  - (ア) 担当養育者でないと判断できないところがある
  - (イ) 担当養育者だと、主観が入ってしまう可能性もある
  - (ウ) 一緒に作業することは必要
  - (エ) SOS は担当が一番よく分かっていると思う。項目によってアセスメントを行う人を変えるのは？
  - (オ) 入所時のアタッチメントについては児相を通して付けてもらって、乳児院に持参してもらうのはどうか？
  - (カ) 担当だと客観性が担保できないという意図はわかりつつ、担当以外でないとこの項目はつけられないというものもある。担当以外がやるのは難しい
  - (キ) 施設によって、実施する人がかわる
  - (ク) 担当と主任クラス、心理でアセスメント票を付けて統合的に判断してもらう。
5. 入所前の姿が分からないので、低月齢児のことは「判定不可」になってしまい答えられない
6. SOS において、発達的にできないのか、SOS なのか
7. 障害のある子ども対しての適用の困難



- (ア) SOS の判定困難
  - (イ) 発達障害の子どもには○をつけにくい
8. 入所時での評定の困難
- (ア) 入所1週間で担当ではない職員がどれだけ把握できるか?
  - (イ) 一時保護…情報が少ない
9. 入所時点でのアタッチメントに関する部分の評定は難しい
- (ア) 子どもが担当を理解できるか?
  - (イ) 担当との関係がまだ築けていない
  - (ウ) 入所時点で「過去にあった」はつけられない
10. 質問項目のワーディング
- (ア) 質問項目が長い・あいまい・理解が難しい
11. 評定の方法について、観察をしながらの評定でないと、大きなずれや負担が生じるのではない  
か
12. 保護者との関係性の観察の困難
- (ア) 面会がない / 少ない / 状況差が大きすぎる
  - (イ) そもそも面会の頻度も関係性を示すポイント
  - (ウ) 面会の観察が難しい
  - (エ) つけにくい
13. 結果の表し方
- (ア) レーダーチャート, グラフ, 表で変化を見やすくまとめた方がよい
  - (イ) チェックしたことがどのような評価になるのか
  - (ウ) 子どもとの特性との照らし合わせの必要性
  - (エ) 入所時と退所時が1枚で見て見比べられるように違う色でチェックして1枚にしたい
14. 記入時間とアセスメントの負担
- (ア) 20分程度
  - (イ) 少し時間がかかる, 量が多い, 15分でできるのが理想
  - (ウ) 20分, 慣れて時間は短縮できるかもしれない
  - (エ) 時間・負担は大きい
  - (オ) アセスメントが重要だと考えているが…
  - (カ) 現場の職員の負担も配慮したい
15. 付け加えた方がよい内容
- (ア) SOS に夜間の睡眠状態
  - (イ) 低月齢児に対しては身体面の SOS 項目の充実
  - (ウ) 親のアセスメント
  - (エ) SOS にコメント欄

(オ) 外泊時のアセスメント

(カ) 食事のアセスメント

(キ) 基本情報, ジェノグラム, 親の生育歴, その子の今までの発達, 予防接種もまとめる

## 4. 考察・試案の改訂の方針

第1回の試行実施にて寄せられた意見とそれに基づく修正点を以下に挙げる。

### (1) コメント1：項目の通過月齢と実際の月齢とのずれ

項目がどの年齢の時に通過する項目かということ把握しておくことは、実施者の項目の解釈のためにも重要であると考えられ、アセスメント票の項目ごとにおおよその通過月齢を併記することも考慮した。しかし、乳児院に入所する子どもの問題が複雑化している現状を踏まえるならば、定型発達児の通過月齢から大幅にずれる可能性も十分にあるため、本アセスメント票内では通過月齢の目安を併記することはせず、当初の試案の通り、全ての月齢の項目を各アセスメント票に含め、マニュアル内にて通過月齢の目安を記載するにとどめることとした。

ただし、項目が想定している月齢と実際の子どもの月齢のずれによる実施者の混乱を避けるため、アセスメント票および手引き・マニュアル内にて、実際の月齢に対して高い/低い月齢を想定した項目を含んでいるが、全てに回答してほしい旨を記載することとした。

### (2) コメント2・3：評定方法の説明と観察者・大人・担当養育者の区別

試案段階でも説明を設けていたが、分かりにくい説明となっていたと考えられるため、手引き・マニュアルの説明をより分かりやすいものになるよう見直すこととした。また、観察者・大人・担当養育者の区別については手引き内にて図を用いた説明を加えるとともに、アセスメント票内の注釈で説明を設けた。

### (3) コメント4：アセスメント票の実施者

評定者について、担当養育者の方が評定をしやすいという意見もあったものの、関係性を客観的に観察できる人で、原則心理職を評定者とする事とした。アセスメントの信頼性を担保するだけでなく、こうしたアセスメントを心理職が行うことで心理職の役割の見直しにもつながることを企図してのことである。

### (4) コメント5－9：変化を捉えることを目的としたアセスメント票

入所時点での評定の困難や、子どもの発達状態によっては判定の困難がある旨について複数意見が寄せられたが、この意見については、あくまでも子どもの「変化」を捉えるために本アセスメント票の実施を行うことや、変化を捉えるためには入所時の様子を正確に把握する必要があることを教示文

で伝わるようにすることとした。また、全項目について「現在はないが過去にあった」「判定不可」を含めて評定を行うこととした。

#### **(5) コメント 10：ワーディング**

質問項目のワーディングについて、分かりにくいという意見が寄せられたものについては、項目ごとのコメントに結びつけて改訂を行った。また項目の解釈や判断に注意が必要と思われるものについては、アセスメント票にて「※」を記し、マニュアルの判断基準の確認を促すこととした。

#### **(6) コメント 11：行動観察を原則とした評定**

試案の段階で本アセスメント票は行動観察による評定を原則（不可能な場合は報告を補足的に用いる）としていたが、ワークショップの形式上、その場で子どもの様子を思い出したりあらかじめ持ってきた記録を頼ったりして評定することとなったため、このような意見が出たと思われる。評定の方法についても原則観察によるものであるということを手引き・マニュアルにてより強調することとした。

#### **(7) その他**

基本情報として妊娠期の情報と子どもの障害の度合いについての情報を盛り込むこととした。

## V. 乳児院での試行実施

### 1. 目的

改訂したアセスメント票を乳児院で実際の行動観察をしながら用いてもらい、また入所・退所を通して使用してもらうことを通して、アセスメント票の改善点を明らかにするとともに、2時点間で実施するため予備的に再検査信頼性を検討することを目的とする。

### 2. 方法

#### (1) 参加者

予備調査を踏まえ修正したアセスメント・シートの実施を14施設に依頼した。内13施設から返送があり、アセスメント・シートは入所が見込まれる一時保護の児も含めて、実施された。入所児32名を対象にアセスメント・シートが実施された。内1名については、入所児の実施のみと乳児院から報告があり、内4名については退所時のアセスメント票を入所時のアセスメント票を使用して行われたと思われるが、定かではないため、この5名については分析から除外した。また、2時点間で同じIDであったにもかかわらず性別が不一致および不明であった2名についても除外し、26名分のデータが用いられた。Table V -2-1 に各アセスメント票への割り当てを示した。

Table V -2-1. アセスメント対象児の男女ごとの各アセスメント票への割り当て人数

	A票	B票	C票	D票	計
女児	7	2	4	0	13
男児	6	3	3	1	13
計	13	5	7	1	26

#### (2) 手続き

2018年11月から12月末日まで入所した児を対象に入所1週間以内に1回実施され、その後、退所する場合は、退所前後1週間以内に再度アセスメントを実施、入所継続の場合は2019年1月末に再度アセスメントを実施した。改訂した発達票を付録2に示した。

#### (3) アセスメント票についての意見の収集方法

アセスメント票についての意見は、以下2つの方法を通して収集した。

第1に、アセスメント票のそれぞれの項目の回答欄の横に各項目についての意見を記入するための

自由記入欄を設けた。

第2に、アセスメント票のセクションごとに全体を通しての意見を記入するための自由記入欄を設けた。

#### (4) 倫理的配慮

子どもの虹情報研修センターの倫理審査委員会の承認を受けた上で実施した。また、子どもの生年月日を収集する代わりに、入所時の年月齢とアセスメント票実施時の年月齢の記入を依頼した。

### 3. 結果

#### (1) アセスメント実施者およびアセスメント対象児の属性

アセスメント票の実施者の職種は、心理士が9名（アセスメント実施人数17名）と最も多かった（Table V -3-1）。また2時点間でアセスメント実施者の職種が不一致なデータが1つあった。乳児院での勤務年数は平均10.27年（標準偏差11.71年，Range 0.58 - 41）であった。Table V -3-1に職種ごとの平均年数と標準偏差を示した。

Table V -3-1. アセスメント票実施者の職種と乳児院勤務年数

職種	対象児人	職員数	平均年数	標準偏差
保育士	3	2	10.5	13.44
看護師	0	0	-	-
児童指導員	0	0	-	-
FSW	5	1	41	-
里親支援専門柵	0	0	-	-
心理	17	9	6.8	5.87
個別対応職員	0	0	-	-
2時点不一致	1	1	-	-

注) FSWはファミリーソーシャルワーカーの意

アセスメントの対象児26名の平均日齢は記入時点で185.8日（標準偏差=160.96，Range 2 - 728）であった。入所時，記入時，退所時それぞれの時点でのアセスメント対象児の平均日齢についてはTable V -3-2に示した。

Table V -3-2. アセスメント対象児の各時点における日齢

	平均日齢	標準偏差	最小	最大
入所時	181.0	165.81	2	728
記入時	185.8	160.96	5	728
退所時	204.9	159.13	30	728

また入所の主要な理由としては、虐待が最も多く 10 名の対象児の主要な入所理由であり、ついで 5 名の対象児の入所理由として親の精神疾患があった (Table V -3-3)。虐待を入所理由とするものうち、虐待の形態としては身体的虐待・ネグレクトが多かった (Table V -3-4)。

Table V -3-3. アセスメント対象児の主要な入所理由

主な入所理由	人数
家族の死亡	0
離別別居	0
家族の受刑 (拘留)	0
不法滞在	0
家族の就労	0
経済的困難	0
虐待	10
家族の疾病	1
家族の精神疾患	5
家族の知的障害	1
出産	0
出張・研修	0
冠婚葬祭	0
家族の疾病付き添い	0
児童自身の障害・疾病	0
母未婚	2
その他	5
不明	2

Table V -3-4. 虐待種別

虐待種別	人数
身体	5
心理	2
性的	0
ネグレクト	4
不明	2

調査期間中に退所した児は12名であったが、8名の退所理由が不明であり、3名が親元への家庭復帰、1名が里親委託であった (Table V -3-5)。

Table V -3-5. アセスメント対象児の退所理由

退所理由	人数
家庭復帰（親元）	3
家庭復帰（親戚）	0
里親委託（ファミリーホーム含む）	1
養子縁組	0
児童養護施設移管	0
知的障害児施設移管	0
肢体不自由児施設移管	0
母子生活支援施設入所	0
死亡	0
その他	0
不明	8

子どもの心身状況については、健全な者が11名であり、被虐待児が7名、病虚弱児が6名、障害児が1名（染色体異常）、不明が1名であった (Table V -3-6, Table V -3-8)。病虚弱児については5名が低体重出生、1名が極小低体重出生であった (Table V -3-7)。

Table V -3-6. 入所時の子どもの心身状況

子どもの心身状況	人数
健全	11
病弱児	6
障害児	1
被虐待児	7
その他	0
不明	1

Table V -3-7. 病虚弱児の分類

病虚弱児の分類	人数
超低出生体重児（1、000g未満）	0
極小低出生体重児（1、000～1、500g）	1
その他の低出生体重児（1、500～2、500g）	5
精神・神経疾患	0
栄養・消化器疾患	0
呼吸器疾患	0
循環器疾患	0
腎泌尿器疾患	0
アレルギー疾患	0
感染免疫疾患	0
血液疾患	0
内分泌・代謝異常	0
先天異常・奇形	0
整形外科疾患	0
眼科・耳鼻咽喉科疾患	0
皮膚科疾患	0
外傷	0
その他	0

Table V -3-8. 障害児の分類

障害児の分類	人数
重症心身障害	0
脳性麻痺・肢体不自由	0
知的発達遅滞	0
染色体異常	1
重度視覚障害	0
重度聴覚障害	0
その他の障害	0

妊娠期のリスクについては、健診未受診が14名、胎児に悪影響とされている化学物質の摂取が7名、不明が5名であった（Table V -3-9）。



Table V -3-9. 妊娠期のリスク

妊娠期のリスク	人数
胎児に悪影響とされている化学物質の 摂取（喫煙、アルコール、薬物等）	7
健診未受診	14
母子手帳無し	0
母親のストレス（DV、借金等）	0
母親の精神状態（うつ、パニック等）	0
母体の疾患（糖尿病、性感染症等）	0
胎児虐待	0
母体と胎児の異常	0
その他	0
不明	5

## （2）数量的分析：再検査信頼性と妥当性の予備的検討

### 1）心理社会的発達

#### データ整理

「行動が見られる」「行動が過去に見られた」を1とし、「時々行動が見られる」を0.5, 「行動が見られない」を0として、合算した上で「回答不可」あるいは無回答の項目を除いた回答項目数で総得点数を割り、「二項関係」「社会性」「社会的認知」「情動発達」「自己発達」それぞれについて得点を算出した。また発達総得点はこれらの領域の得点を合算した。

#### 記述統計量

Table V -3-10 に記述統計量を示した。まず回答数については概ね全対象児についてのデータがあるが、社会性と社会的認知に関する回答が比較的少なくなっていた。また5領域と心理社会的発達の総得点について、ある程度分散が見られた。

Table V -3-10. 発達領域の入所時および退所時（入所継続）の記述統計量と2時点間での差の検定

	入所						退所/入所継続						統計量		
	N	平均	標準偏差	中央値	最小値	最大値	N	平均	標準偏差	中央値	最小値	最大値			
発達総得点	24	1.16	0.89	1.13	0.04	3.22	26	1.55	1.17	1.22	0.21	3.77	入所<退所	***	T=19
二項関係	26	0.45	0.29	0.43	0	0.89	26	0.52	0.29	0.46	0.11	0.98	入所<退所	*	T=86
社会性	24	0.07	0.11	0	0	0.39	26	0.12	0.19	0	0	0.62	入所<退所	***	T=0
社会的認知	24	0.13	0.18	0.03	0	0.53	26	0.17	0.26	0	0	0.79	入所<退所	*	T=9.5
情動発達	26	0.31	0.18	0.3	0.02	0.64	26	0.44	0.24	0.4	0.05	0.92	入所<退所	***	T=22
自己発達	26	0.23	0.25	0.17	0	0.9	26	0.29	0.27	0.21	0	0.9	入所<退所	*	T=42

注) \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

## 2 時点間での差

シャピロ・ウィルクの正規性の検定を行ったところ、入所時の発達総得点、二項関係、社会性、社会的認知、自己発達において正規性の仮定が棄却され、退所時においても二項関係、社会性、社会的認知、自己発達において正規性の仮定が棄却されたため、以下ではウィルコクソン符号付順位検定を行い2時点間での中央値の差を検討した。結果を Table V -3-10 に示した。心理社会的発達の総得点、二項関係、社会性、社会的認知、情動発達、自己発達全てにおいて有意な得点の増加が見られた。

## 2 時点間の相関：再検査信頼性の予備的検討

2 時点間の相関係数を算出し、無相関検定を行った。なお、本予備調査においてはサンプルの特殊性もあり、サンプル数が少ないため、検定は予備的なものにとどまらざるをえないが、2 時点間の相関を検討することで、再検査信頼性について手がかりを得ることとした。Table V -3-11 に心理社会的発達に関する2時点間の相関を示した。枠で囲ったものが各領域の2時点間の相関係数である。心理社会的発達の総合得点も含め、いずれの領域においても2時点間で高い有意な相関が見られた。

Table V -3-11. 入所－退所（入所継続）時点間の発達領域に関する相関表

	退所時					
	1	2	3	4	5	6
入所時						
1 発達総得点	0.93 **	0.89 **	0.83 **	0.86 **	0.87 **	0.89 **
2 二項関係	0.67 **	0.73 **	0.54 *	0.58 *	0.66 **	0.59 *
3 社会性	0.82 **	0.65 *	0.87 **	0.85 **	0.68 **	0.81 **
4 社会的認知	0.86 **	0.72 **	0.87 **	0.94 **	0.75 **	0.79 **
5 情動発達	0.83 **	0.82 **	0.71 **	0.73 **	0.87 **	0.73 **
6 自己発達	0.73 **	0.75 **	0.61 *	0.6 *	0.68 **	0.76 **

注) \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

## 時点ごとの領域間の相関

Table V -3-12 に入所時点の領域間の相関係数を、Table V -3-13 に退所（入所継続）時点の領域間の相関係数を表した。入所時点・退所時点いずれにおいても心理社会的発達の各領域間が強く相関し合っていることが見られた。

Table V -3-12. 入所時点における発達領域内での相関

	入所時					
	1	2	3	4	5	6
入所時						
1 発達総得点		0.88 **	0.83 **	0.86 **	0.93 **	0.88 **
2 二項関係			0.56 *	0.59 *	0.86 **	0.58 *
3 社会性				0.91 **	0.65 *	0.76 **
4 社会的認知					0.72 **	0.73 **
5 情動発達						0.73 **
6 自己発達						

注) \* $p < .05$ . \*\* $p < .01$

Table V -3-13. 退所時点における発達領域内での相関

	退所時					
	1	2	3	4	5	6
退所時						
1 発達総得点		0.93 **	0.92 **	0.92 **	0.94 **	0.96 **
2 二項関係			0.77 **	0.76 **	0.89 **	0.92 **
3 社会性				0.93 **	0.82 **	0.86 **
4 社会的認知					0.83 **	0.82 **
5 情動発達						0.87 **
6 自己発達						

注) \*\* $p < .01$

## 2) 子どもの SOS サイン

### データ整理

トラウマ（6 か月－10 か月版）とトラウマ（10 か月－版）と SOS それぞれについて、「よくある」を 4 とし、「ある」を 3, 「たまにある」を 2, 「ない」および「過去にあった」を 1 とし、合算した上で「年齢的に不可能・不明」あるいは無回答の項目を除いた回答項目数で総得点数を割り、それぞれについて得点を算出した。

### 記述統計量と 2 時点間の差

Table V -3-14 に記述統計量を示した。トラウマと SOS のいずれについても平均値および中央値は 1 強であり最大値も 2 前後にとどまっていた。また特に、退所（入所継続）時点でのトラウマ（10 か月－）と SOS の分散が小さかった。

シャピロ・ウィルクの正規性の検定を行ったところ、入所時・退所時（入所継続）2 時点の上述の

3変数全てにおいて正規性の仮定が棄却されたため、以下ではウィルコクソン符号付順位検定を行い2時点間での中央値の差を検討した (Table V -3-14)。その結果トラウマについては、いずれも減少傾向はみられるものの、有意な差は見られなかった。一方で、SOSについては入所から退所 (入所継続) にかけて有意な減少が見られた。

Table V -3-14. 子どもの SOS の記述統計量と2時点間での差の検定

	入所					退所/入所継続					統計量			
	N	平均	標準偏差	中央値	最小値	最大値	N	平均	標準偏差	中央値		最小値	最大値	
トラウマ (6か月-10か月)	14	1.49	0.55	1.29	1	2.5	11	1.44	0.47	1.14	1	2	<i>n.s.</i>	<i>T</i> =15
トラウマ (10か月-)	26	1.30	0.37	1.2	1	2.62	26	1.26	0.24	1.21	1	1.7	<i>n.s.</i>	<i>T</i> =84
SOS	24	1.27	0.32	1.18	1	2	25	1.15	0.22	1.05	1	1.75	入所>退所 *	<i>T</i> =114

注) \**p* <.05.

### 2時点間の相関：再検査信頼性の予備的検討

Table V -3-15 に SOS およびトラウマに関する2時点間の相関を示した。枠で囲ったものがそれぞれの変数の2時点間の相関係数である。トラウマ・SOS いずれにおいても同一変数間で中程度以上の相関が認められた。

Table V -3-15. 入所-退所 (入所継続) 時点間の子どもの SOS 領域に関する相関

	退所時/入所継続		
	トラウマ (6か月-10か月)	トラウマ (10か月-)	SOSサイン
入所時			
トラウマ (6か月-10か月)	0.68 *	0.66 *	0.43
トラウマ (10か月-)	0.43	0.77 **	0.26
SOSサイン	0.59 †	0.46 *	0.50 *

注) \**p* <.05, \*\**p* <.01

### 時点ごとの相関

Table V -3-16 に入所時点の、Table V -3-17 に退所 (入所継続) 時点の相関をまとめた。トラウマについては、入所時・退所時のいずれにおいても中程度の有意な正の相関が見られた。また低月齢を対象としたトラウマと SOS との間には入所・退所を通して有意な正の中程度の相関が見られた。一方で高月齢 (10か月以上) を対象としたトラウマと SOS との間には、入所時点では有意な正の中程度の相関が見られたものの、退所時点においては *r*=.19 であった。

Table V -3-16. 入所時点における子どもの SOS 領域内での相関

	入所時		SOSサイン
	トラウマ (6か月-10か月)	トラウマ (10か月-)	
入所時			
トラウマ (6か月-10か月)		0.68 *	0.64 *
トラウマ (10か月-)			0.47 *
SOSサイン			

注) \* $p < .05$ 

Table V -3-17. 退所時点における子どもの SOS 領域内での相関

	退所時/入所継続		SOSサイン
	トラウマ (6か月-10か月)	トラウマ (10か月-)	
退所時/入所継続			
トラウマ (6か月-10か月)		0.68 *	0.63 *
トラウマ (10か月-)			0.19
SOSサイン			

注) \* $p < .05$ 

### 3) アタッチメント

#### データ整理

担当養育者および保護者に対するアタッチメントについては、アタッチメントの安定性、無秩序・無方向型アタッチメント、アタッチメント障害に関する項目群から構成されており、項目に記載された行動が対象児に「全くあてはまらない」場合に1、「あまりあてはまらない」場合に2、「どちらでもない」場合に3、「ややあてはまる」場合に4、「よくあてはまる」場合に5として得点を合算し、無回答を除く項目数で割って値を算出した。

なお、「アタッチメントの安定性」の下位尺度として「安全基地 (6項目)」「情動調整の機能不全 (9項目)」「心の理解 (9項目)」が含まれていたが、情動調整の機能不全を測定する項目群は逆転項目で

構成されていた。アタッチメントの安定性の総合得点として算出する際には、情動調整機能不全に関する項目の回答を逆転させた数値を用いて合算し、回答のあった項目数で割って算出した。一方で、情動調整の機能不全としての値の算出は値を逆転せずに合算し、回答のあった項目数で割って算出した。

無秩序・無方向型アタッチメントと反応性アタッチメント障害および脱抑制型対人交流障害に関する項目についても得点を合算し、無回答を除く項目数で除した値を分析に用いた。

### 記述統計量

記述統計量を Table V -3-18 に示した。担当養育者に対するアタッチメントについては入所時点での回答が8名分、退所時点での回答が9名分、保護者に対するアタッチメントについては入所時点での回答が3名分、退所時点での回答が7名分であり、いずれも少なく、特に保護者に対するアタッチメントで入所時点のものが著しく少なかった (Table V -3-18)。よって、担当養育者に対するアタッチメントに関しては予備的に検定を行うが、保護者に対するアタッチメントについては記述統計のみにとどめることとする。

担当養育者に対するアタッチメントについては、無秩序・無方向型アタッチメントについては入所時・退所（入所継続）時いずれにおいても低くとどまっていた。退所時点においては反応性アタッチメント障害、脱抑制型対人交流障害のいずれも低くとどまっていた。

保護者に対するアタッチメントについては、入所時点・退所時点いずれにおいても心の理解、情動調整の機能不全、無秩序・無方向型アタッチメントが低くとどまっていた。

### 2時点間の差

担当養育者に対するアタッチメントについてシャピロ・ウィルクの正規性の検定を行ったところ、退所時の脱抑制型対人交流障害のみ正規性の仮定が棄却されたが、検定力の低さによる第2種の過誤の可能性も考えられるため、ここでは正規分布を仮定しないウィルコクソン符号付順位検定を行った。その結果を Table V -3-18 に示した。

担当養育者に対するアタッチメントの安定性と安全基地、心の理解については有意な増加傾向が見られた。一方で情動調整の機能不全と無秩序・無方向型アタッチメントについては中央値をみると増加傾向が見られたが有意ではなかった。中央値をみるとまた、反応性アタッチメント対象については入所から退所にかけて有意な減少傾向がみられた。脱抑制型対人交流障害については減少傾向がみられたものの有意ではなかった。

保護者に対するアタッチメントについては、入所時点が $N=3$ とサンプルサイズが小さいため、検定は行っていないが、アタッチメントの安定性や安全基地の得点が下がっていた。

Table V -3-18. アタッチメントの入所時および退所時（入所継続）の記述統計量と2時点間での差

	入所						退所/入所継続						統計量
	N	平均	標準偏差	中央値	最小値	最大値	N	平均	標準偏差	中央値	最小値	最大値	
担当養育者													
アタッチメントの安定性	8	3.33	0.44	3.32	2.79	4.21	9	3.79	0.43	3.79	3.16	4.5	入所<退所 * T=1
安全基地	8	2.6	0.84	2.42	1.5	4.17	9	3.7	0.75	4	2.33	4.83	入所<退所 * T=1
心の理解	8	2.1	1.21	2.06	1	4.67	9	2.7	1.03	2.33	1.11	4.67	入所<退所 * T=0
情動調整の機能不全	8	2.0	0.85	2	1	3.11	9	2.1	0.85	2.33	0.22	3.11	n.s. T=1
無秩序・無方向型アタッチメント	8	1.5	0.59	1.3	1	2.4	9	1.5	0.45	1.6	0.8	2	n.s. T=11.5
反応性アタッチメント障害	8	2.2	0.87	2.1	1	3.4	9	1.5	0.40	1.4	1	2	入所>退所 † T=19
脱抑制型対人交流障害	8	2.0	1.08	2	0.8	3.8	9	1.5	0.81	1	0.8	3	n.s. T=13
保護者													
アタッチメントの安定性	3	3.71	0.22	3.69	3.5	3.94	7	3.57	0.6	3.73	2.62	4.37	- -
安全基地	3	3.1	0.51	3.17	2.5	3.5	7	2.6	1.31	2.67	1	4.33	- -
心の理解	3	1.6	1.56	1.67	0	3.11	7	1.4	1.10	1.11	0	3.11	- -
情動調整の機能不全	3	1.3	1.13	1.78	0	2.11	7	1.8	1.08	1.78	0.11	3.22	- -
無秩序・無方向型アタッチメント	3	1.5	0.50	1.6	1	2	7	1.1	0.28	1	0.8	1.6	- -
反応性アタッチメント障害	3	2.3	0.31	2.4	2	2.6	7	1.9	1.02	1.8	1	3.6	- -
脱抑制型対人交流障害	3	1.7	1.17	1.2	0.8	3	7	1.8	1.19	1.6	0.8	3.8	- -

注) † $p < .1$  \* $p < .05$ .

## 2時点間の相関：再検査信頼性の予備的検討

## 担当養育者に対するアタッチメント

Table V -3-19に担当養育者に対するアタッチメントの2時点間での相関を示した。枠内がそれぞれの変数の2時点間での相関である。アタッチメントの安定性、心の理解、情動調整の機能不全、脱抑制型対人交流障害については中程度～高い2時点間での正の相関が見られた。安全基地と無秩序・無方向型アタッチメント、反応性アタッチメント障害については2時点で弱い正の相関が見られた。

Table V -3-19. 入所－退所（入所継続）時点間の担当養育者へのアタッチメントに関する相関

入所時（担当養育者）	退所時（担当養育者）						
	1	2	3	4	5	6	7
アタッチメントの安定性							
1 アタッチメントの安定性	0.67 †	0.46	0.75 *	0.68 †	0.41	-0.31	-0.60
2 安全基地	0.11	0.38	0.83 *	0.66 †	0.86 **	0.30	-0.27
3 心の理解	0.19	0.34	0.91 **	0.80 *	0.87 **	0.24	-0.34
4 情動調整の機能不全	-0.01	0.10	0.81 *	0.77 *	0.96 **	0.39	-0.19
無秩序・無方向型アタッチメント							
5 無秩序・無方向型アタッチメント	-0.62	-0.54	-0.10	-0.04	0.38	0.57	0.51
アタッチメント障害							
6 反応性アタッチメント障害	-0.59	-0.06	-0.19	-0.31	0.21	0.35	0.24
7 脱抑制型対人交流障害	-0.84 **	-0.26	-0.72 *	-0.75 *	-0.48	0.54	0.78 *

注) † $p < .1$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ 

## 保護者に対するアタッチメント

Table V -3-20に保護者に対するアタッチメントに関する2時点間での相関を示した。ただし、 $N=3$ であったため検定を行わず、参考にとどめる。安全基地、情動調整の機能不全、無秩序・無方向型アタッチメントにおいて2時点間の相関が低くとどまっていた。

Table V -3-20. 入所－退所（入所継続）時点間の保護者へのアタッチメントに関する相関

	退所時（保護者）						
	1	2	3	4	5	6	7
入所時（保護者）							
アタッチメントの安定性							
1 アタッチメントの安定性	1.00	-0.83	-0.79	-0.72	-0.83	-0.22	-0.42
2 安全基地	0.67	-0.05	0.01	-0.99	-0.94	0.64	0.47
3 心の理解	-0.52	0.94	0.96	-0.13	0.04	0.92	0.98
4 情動調整の機能不全	-0.92	0.96	0.94	0.48	0.62	0.51	0.68
無秩序・無方向型アタッチメント							
5 無秩序・無方向型アタッチメント	0.38	-0.88	-0.91	0.28	0.11	-0.97	-1.00
アタッチメント障害							
6 反応性アタッチメント障害	-0.16	0.74	0.78	-0.50	-0.34	1.00	0.98
7 脱抑制型対人交流障害	-0.37	0.87	0.90	-0.30	-0.13	0.97	1.00

### 時点ごとの相関

#### 担当養育者に対するアタッチメント

Table V -3-21 に入所時点の担当養育者に対するアタッチメントの相関を、Table V -3-22 に退所（入所継続）時点での担当養育者に対するアタッチメントの相関を示した。

入所時点におけるアタッチメントの安定性については、有意ではないが安全基地行動と中程度の正の相関があり、心の理解との間に有意傾向の中程度の正の相関があった。一方で情動調整の機能不全との間には有意ではないが、弱い相関が見られた。一方でアタッチメントの安定性と無秩序無方向型アタッチメント、反応性アタッチメント障害、脱抑制型対人交流障害の間には、中程度～有意で強い負の相関が見られた。退所時点においても、アタッチメントの安定性とその他の変数との関連は同じような方向性であった。ただし、退所時点では無秩序・無方向型アタッチメントとの間にはほとんど相関がみられなかった。

アタッチメントの安定性の下位尺度である安全基地については、入所時点では他の下位尺度である心の理解および情動調整の機能不全との間に有意な高い正の相関が見られた。一方で退所時点では心の理解との間に正の弱い相関、情動調整の機能不全との間にはほとんど相関が見られなかった。また入所時点・退所時点いずれにおいても、安全基地と無秩序・無方向型アタッチメントおよび反応性アタッチメント障害との間にはほとんど相関がみられず、脱抑制型対人交流障害との間には中程度の有意な負の相関が見られた。

アタッチメントの安定性の下位尺度である心の理解については、入所時点・退所時点いずれにおいても情動調整の機能不全との間に有意な強い相関が見られた。また入所時点・退所時点いずれにおいても反応性アタッチメント障害との間にはほとんど相関が見られず、脱抑制型対人交流障害との間に負の中程度の相関が見られた。一方で、入所時点において心の理解と無秩序・無方向型アタッチメントとの間にはほとんど相関が見られなかったが、退所時点においては有意な強い正の相関が見られた。



情動調整の機能不全については入所時点・退所時点いずれにおいても、無秩序・無方向型アタッチメントの間に正の中程度の相関が見られた。また脱抑制型対人交流障害との間にも、2時点間いずれにおいても負の中程度の相関が見られた。反応性アタッチメント障害との間には、入所時点ではほとんど相関が見られず、退所時点では弱い負の相関が見られた。

無秩序・無方向型アタッチメントについては、入所時点においては反応性アタッチメント障害と脱抑制型対人交流障害との間に中程度の正の相関が見られたが、退所時点においては反応性アタッチメント障害との間に正の弱い相関、脱抑制型対人交流障害との間に負の弱い相関が見られた。

反応性アタッチメント障害と脱抑制型対人交流障害との間には、入所時点・退所時点いずれにおいても中程度の正の相関が見られた。

Table V -3-21. 入所時点における担当養育者へのアタッチメント領域内での相関

	入所時 (担当養育者)						
	1	2	3	4	5	6	7
入所時 (担当養育者)							
アタッチメントの安定性							
1 アタッチメントの安定性		0.62	0.69 †	0.34	-0.60	-0.63	-0.80 *
2 安全基地			0.92 **	0.81 **	0.06	0.05	-0.43
3 心の理解				0.89 **	0.04	-0.11	-0.50
4 情動調整の機能不全					0.45	0.13	-0.34
無秩序・無方向型アタッチメント							
5 無秩序・無方向型アタッチメント						0.54	0.36
アタッチメント障害							
6 反応性アタッチメント障害							0.49
7 脱抑制型対人交流障害							

注) † $p < .1$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

Table V -3-22. 退所 (入所継続) 時点における担当養育者へのアタッチメント領域内での相関

	退所時 (担当養育者)						
	1	2	3	4	5	6	7
退所時 (担当養育者)							
アタッチメントの安定性							
1 アタッチメントの安定性		0.51	0.51	0.46	0.11	-0.56	-0.87 **
2 安全基地			0.39	0.17	0.08	0.11	-0.69 *
3 心の理解				0.85 **	0.85 **	-0.02	-0.60
4 情動調整の機能不全					0.62	-0.26	-0.59
無秩序・無方向型アタッチメント							
5 無秩序・無方向型アタッチメント						0.26	-0.23
アタッチメント障害							
6 反応性アタッチメント障害							0.47
7 脱抑制型対人交流障害							

注) \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

保護者に対するアタッチメント

入所時点での相関表を Table V -3-23 に示した。しかし、 $N=3$  であるため、参考にとどめる。

Table V -3-23. 入所時点における保護者へのアタッチメント領域内での相関

	入所時（保護者）						
	1	2	3	4	5	6	7
入所時（保護者）							
アタッチメントの安定性							
1 アタッチメントの安定性		0.60	-0.59	-0.95	0.46	-0.99	-0.24
2 安全基地			0.29	-0.33	-0.43	-0.50	0.63
3 心の理解				0.81	-0.99	0.69	0.92
4 情動調整の機能不全					-0.71	0.98	0.52
無秩序・無方向型アタッチメント							
5 無秩序・無方向型アタッチメント						-0.56	-0.97
アタッチメント障害							
6 反応性アタッチメント障害							0.35
7 脱抑制型対人交流障害							

退所時点での相関表を Table V -3-24 に示した。ただし、 $N=7$  であるため、参考にとどめる。アタッチメントの安定性と、安全基地、心の理解、情動調整の機能不全との間に正の弱い相関が見られた。一方で、無秩序・無方向性アタッチメント、反応性アタッチメント障害、脱抑制型対人交流障害との間には、負の弱い強い相関が見られた。

安全基地についても、心の理解、情動調整の機能不全との間に正の中程度～強い相関が見られた。一方で、無秩序・無方向型アタッチメント、反応性アタッチメント障害、脱抑制型対人交流障害との間には、負の弱い相関が見られた。

心の理解については、情動調整の機能不全および反応性アタッチメント障害との間に正の中程度～強い相関が見られた。無秩序・無方向型アタッチメントの間には弱い負の相関がみられ、脱抑制型対人交流障害との間にはほとんど相関が見られなかった。

情動調整の機能不全については、無秩序・無方向型アタッチメントおよび反応性アタッチメント障害との間に弱い負の相関が見られ、脱抑制型対人交流障害との間に負の中程度の相関が見られた。

無秩序・無方向型アタッチメントについては、脱抑制型対人交流障害との間に正の中程度の相関が見られ、反応性アタッチメント障害との間には弱い負の相関が見られた。

反応性アタッチメント障害と脱抑制型対人交流障害との間には正の弱い相関が見られた。

Table V -3-24. 退所（入所継続）時点における保護者へのアタッチメント領域内での相関

	退所時（保護者）						
	1	2	3	4	5	6	7
退所時（保護者）							
アタッチメントの安定性							
1 アタッチメントの安定性		0.57	0.32	0.62	-0.73	-0.34	-0.76
2 安全基地			0.55	0.79	-0.19	-0.24	-0.26
3 心の理解				0.45	-0.15	0.50	0.03
4 情動調整の機能不全					-0.27	-0.18	-0.67
無秩序・無方向型アタッチメント							
5 無秩序・無方向型アタッチメント						-0.14	0.65
アタッチメント障害							
6 反応性アタッチメント障害							0.29
7 脱抑制型対人交流障害							

### (3) コメント

アセスメント票に寄せられたコメントを領域ごとに Table V -3-25 にて示す。なお、アセスメント票全体に関するコメントを記入する欄を設けてあり、コメントの記述があったがそれらの内容はそれぞれの領域に対するコメントやアセスメント対象児についての個別的な記述のみであったため、各領域に関することは、それぞれの領域についてのコメントとして示し、個別の対象児についての記述はここでは掲載しないこととした。

Table V -3-25. 発達票に寄せられたコメントの概要

#### 1. 二項関係

(ア) 低月齢で見られないことが多い

(イ) 入所児における「馴れている大人」とは？

→入所2週間以内，入所後は1～2か月

→逆に落ち着く子に不自然さがある

(ウ) 虐待ケースで養育環境も適切でなかったためか1か月でも大きな変化

#### 2. 社会性

(ア) 低月齢で見られないことが多い

(イ) 月齢が低くできない場合は×か？か書かれていないので判断に迷った

#### 3. 社会的認知

(ア) 低月齢でみられないことが多い→省略したらよいのではないか

(イ) 判断基準の明記により迷うことはなかったが、項目の違いの意図の解説があるとよい

#### 4. トラウマ

(ア) 入所時(4か月)でもトラウマを想起させる上記の行動があった。6か月未満(A票)でもあってもよかったのではとこのケースに限っては思った。

#### 5. SOS

(ア) 注意して見ていきたい項目

(イ) 担当とそうでない大人の区別がついていない

(ウ) 月齢的に困難の判断には心理職や同等のスキルが必要

(エ) 行動が消失した・改善したときは「ない」なのか「過去にあった」なのか?

#### 6. アタッチメント(担当養育者)

(ア) 記入の後、担当がまだ決まっていなかった為、対象児が在籍している部屋に出入りする回数が多かった職員を対象として実施しました

(イ) 担当未定

#### 7. アタッチメント(保護者)

(ア) 保護者との面会、入所後ない/少ない

(イ) 入所後1週間以内の面会はほとんどない

## 4. 考察

### (1) 数量的分析：信頼性と妥当性の予備的分析

#### 1) 心理社会的発達

##### 記述統計量

社会性と社会的認知に関する回答が比較的少なくなっていることについては、他の発達に関する領域が低月齢児を想定した項目も含んでいるのに対し、この2領域についてはある程度高月齢になってから回答可能な項目を多く含んでいたためと考えられる。また5領域と心理社会的発達の総得点について、ある程度分散が見られたと考えられる。

##### 2時点間での差

心理社会的発達の総得点、二項関係、社会性、社会的認知、情動発達、自己発達全てにおいて有意な得点の増加が見られたことから、心理社会的発達に関する項目群は1か月～1か月半という短い期間内での子どもの心理社会的発達を捉えることができていたことが示唆される。

##### 2時点間での相関：再検査信頼性の予備的検討

心理社会的発達の総合得点も含めいずれの領域においても2時点間で高い有意な相関が見られたことから、予備的ではあるものの、再検査信頼性が確認されたと考えられる。

##### 各時点間での領域間の相関

入所時点・退所時点いずれにおいても心理社会的発達の各領域間が中程度～強く相関し合っていたことから、各領域は同領域の心理社会的発達を反映していることが示唆される。

## 2) SOS サイン

### 記述統計量と2時点間での差

トラウマとSOSのいずれについても平均値および中央値は1弱であり最大値も2前後にとどまることから、トラウマ反応を想定した項目自体がアセスメント対象児においてあまり見られなかった可能性が示唆される。

その結果トラウマについては、いずれも減少傾向はみられるものの、有意な差は見られなかった。このことは今回の調査の2時点間の差は1か月-1か月半という短い期間であり、トラウマからの回復は短い期間ではなされにくいことに起因するのではないかと考えられる。一方で、SOSについては入所から退所（入所継続）にかけて有意な減少がみられた。SOSに関する項目は乳児院の心理士が作成した気にかかる子どもの様子や行動について、身体的側面・心理的側面・関係性の側面に分けてまとめられた『中堅職員にむけた研修小冊子・初任職員にむけた研修小冊子』（全国乳児福祉協議会、2016）をもとに作成された。ここでの分析はSOSを全て合算するのみであり、身体的側面・心理的側面・関係性の側面に分けて得点化しているわけではないが、項目への回答とともに記入されたコメント・メモを見ていくと、入所時点での食事・排泄に関するメモが多くなされていたが、退所時点でのそれらのメモは少なくなっていたと思われる。このことから乳児院での生活への順応の中で食事・排泄に関する気にかかる行動が減少していると評価され、子どものSOSが2時点間で有意に下がった可能性が考えられる。

SOSは今回の予備調査では2時点間にわたって低くとどまっていたとはいえ、コメント・メモを見ると感情表出の少なさや、一度泣き出すと止まらないこと、保護者を前に笑顔が消えるなど、食事・排泄にとどまらない気にかかる行動がみられていることが伺われる。SOSに関する尺度については、今後整理を行い、いくつかの因子に分けて扱った上で経時的な変化を明らかにする必要があるだろう。

### 2時点間での相関：再検査信頼性の予備的検討

トラウマ・SOSいずれにおいても中程度以上の相関が認められたことから、再検査信頼性について予備的ではあるものの今回のサンプルに限れば確認されたと考えられる。

### 各時点間での領域間の相関

異なる月齢を対象としたトラウマについては入所・退所いずれにおいても中程度の有意な正の相関がみられたことから、トラウマについては収束的妥当性が認められたのではないかと考えられる。また低月齢を対象としたトラウマとSOSの間には入所・退所を通して有意な正の中程度の相関が見られた。一方で高月齢（10か月以上）を対象としたトラウマの間には入所時点では有意な正の中程度の相関が見られたものの、退所時点においては $r=.19$ であった。これは退所時点でのSOSとトラウマ（10か月以上）それぞれの分散が非常に小さくなっていたために、相関が低く出たと考えられる。

### 3) アタッチメント

#### 記述統計量

担当養育者に対するアタッチメントについては入所時点での回答が8名分、退所時点での回答が9名分、保護者に対するアタッチメントについては入所時点での回答が3名分、退所時点での回答が7名分であり、いずれも少なく、特に保護者に対するアタッチメントで入所時点のものが著しく少なかった。これはコメントにおいて入所直後の担当が決まっているかいないかの段階でのアタッチメント評定が難しいことや、特に保護者においては面会もなくアセスメントの実施が難しかったことによるものであると考えられる。

担当養育者に対するアタッチメントについては、無秩序・無方向型アタッチメントについては入所時・退所（入所継続）時いずれにおいても低くとどまっていたことから、今回のサンプルについては無秩序・無方向型のアタッチメントの行動的特徴はあまり見られなかったと考えられる。また、退所時点においては反応性アタッチメント障害、脱抑制型対人交流障害のいずれも低くとどまっていたことから、アタッチメント障害の行動的特徴は、入所時点では見られたものの、退所時点においてはあまり見られないものとなっていたと考えられる。

保護者に対するアタッチメントについては、入所時点・退所時点いずれにおいても心の理解、情動調整の機能不全、無秩序・無方向型アタッチメントが低くとどまっていた。情動調整の機能不全については元の尺度においてはアタッチメント対象が児の情動調整機構として機能していない・利用できない不安定型アタッチメントの行動的特徴を反映した項目群であると考えられていたことから、今回のサンプルは比較的アタッチメントが組織化されており、不安定性も低い群であったと考えられる。ただし、養育者との面会が少ない場合もあり、面会の有無自体が関係性を反映しているというコメントもあることから、養育者と子どもが面会することができる機会がありアセスメント票の実施が可能であったサンプルだからこそ、今回のような結果が得られた可能性はあると考える。

#### 2時点間での差

**担当養育者** アタッチメントの安定性と安全基地、心の理解については有意な増加傾向が見られた。今回の調査は1か月～1か月半という短期間ではあったが、その中でもアタッチメントの安定性や安全基地行動の増加が見られる項目群になっていたと考えられる。

心の理解には、社会的参照やアタッチメント対象を基盤にしながらの探索（安全基地）についての項目も含まれていたが、それだけではなく子どもの大人に対する従順性や大人指示の理解能力についての項目が含まれていた。社会的参照やアタッチメント対象を基盤にした探索が、1か月～1か月半にかけて、担当養育者とのアタッチメント関係が形成される中で増加したとも考えられるが、子どもの担当養育者への従順性が高まった可能性もあるだろう。

また、反応性アタッチメント障害については入所から退所にかけて有意な減少傾向が見られた。入所直後ということもあり、人一般に対して情緒的にひきこもる反応性アタッチメント障害のような行動特徴が多く見られ、1か月～1か月半で減少したのかもしれない。

**保護者** 入所時点が $N=3$ とサンプルサイズが小さいため、検定は行っていないが、保護者に対する

アタッチメントの安定性や安全基地の得点が下がっていた。これは、今回のサンプルである入所直後に保護者と子どもの面会があるサンプルのアタッチメントの安定性が高く、退所（入所継続）時点で様々なサンプルが加わることで、アタッチメントの安定性や安全基地の得点の平均値が下がったのではないかと考える。また、別の可能性としては1か月～1か月半の保護者との分離の中で、アタッチメント対象としての保護者の利用の仕方に変化が見られた可能性も考えられる。

## 2時点間での相関：再検査信頼性の予備的検討

**担当養育者** アタッチメントの安定性、心の理解、情動調整の機能不全、脱抑制型対人交流障害については中程度～高い2時点間での相関が見られたことから、これらの領域については再検査信頼性が確認されたと考える。

一方で、安全基地と無秩序・無方向型アタッチメント、反応性アタッチメント障害については2時点で弱い相関がみられ、有意ではなかった。今回のサンプルにおいては、2時点間で $r = .30$ ほどの相関が見られたが、同じ尺度の2時点の相関と考えるならば弱い相関であり、この背後には入所時点での安全基地や無秩序・無方向型アタッチメント、反応性アタッチメント障害の行動特徴が入所時点ということで特有の出方をしたため、相関が低くなった可能性が考えられる（例えば、それまでの養育環境から離れ、多くの新たな大人のいる養育環境に変化したため、反応性アタッチメント障害のような行動が多く見られたと判断されたのかもしれない）。

**保護者** 保護者に対するアタッチメントのデータは3名分のみなので、ここでは再検査信頼性についての検討を行わない。ただし、同じ尺度にも関わらず、安全基地、情動調整の機能不全、無秩序・無方向型アタッチメントにおいて2時点間の相関が低くとどまっていた。この背後には上述したように入所～退所（入所継続）の1か月～1か月半の間で保護者と分離されることで、安全基地としての利用の仕方が変化するのかもしれない。

## 各時点の領域間の相関

### **担当養育者**

**アタッチメントの安定性** アタッチメントの安定性は、安全基地および心の理解との間にそれぞれ正の相関が見られ、無秩序・無方向型アタッチメントや反応性アタッチメント障害、脱抑制型対人交流障害との間に負の相関が見られたことから、一般化可能性には注意する必要があるが、本調査のサンプルにおいてはアタッチメントの安定性の収束的妥当性と弁別的妥当性が確認されたのではないかと考えられる。

**安全基地** 安全基地については、アタッチメントの安定性および心の理解との間に正の相関が見られ、無秩序・無方向型アタッチメント、反応性アタッチメント障害との間の相関がほとんど相関がみられず、脱抑制型対人交流障害との間に負の中程度の相関が見られたことから、一般化可能性には注意する必要があるが、本調査のサンプルにおいては、安全基地の収束的妥当性と弁別的妥当性が確認されたのではないかと考えられる。ただし、不安定型アタッチメントを想定した項目群である情動調整の機能不全との間に、入所時点において高い正の相関が認められた。このことについては後述する。

**心の理解** アタッチメントの安定性の下位尺度である心の理解は、前述のように社会的参照やアタッチメント対象を基盤とした探索に関する項目を含む一方で、従順性や他者の心の理解能力に関する項目を含んでいた。実際心の理解は、入所時点においてはアタッチメントの安定性や安全基地と高い相関があり、退所時点においても中程度の相関が見られており、脱抑制型対人交流障害との間に2時点通して負の中程度の相関があったことから、安定型アタッチメントと近い概念を測っていると思われる。しかし、不安定型アタッチメントを想定した項目群である情動調整の機能不全や退所時点における無秩序・無方向型アタッチメントとの間にも正の強い相関があるため、心の理解については、今後どのような概念であるのか検討する必要があるだろう。

**情動調整の機能不全** アタッチメントの安定性の下位尺度である情動調整の機能不全は、青木ら(2014)によれば、不安定型アタッチメントの行動的特徴を反映した項目として作成されたものであり、安全基地や心の理解との間には有意な相関は見られていなかった。本予備調査においても無秩序・無方向性型アタッチメントとの間に入所時点・退所時点通して正の中程度の相関が見られたが、一方で、アタッチメントの安定性や心の理解との間に高い正の相関がみられ、退所時においては反応性アタッチメント障害と、入所時・退所時いずれにおいても脱抑制型対人交流障害との間に負の相関が見られ、予測外の結果が得られた。

情動調整の機能不全は、不安定型アタッチメントの特徴を反映した項目として作成されたものであるが、本予備調査においてはアタッチメントの安定性と近い概念を測定したのではないかと考えられる。アンビバレント型アタッチメントの行動的特徴を表した項目が含められていたため、児から担当養育者へのシグナリングを行うが情動調整がなされないという項目が多く含まれていたが、そもそも必要な場面でもシグナリングや近接を行わなかったり、安全基地を利用しなかったりする回避型の行動的特徴を含む項目が含まれていなかったため、シグナリングの多さとアタッチメントの安定性が弁別されず、アタッチメントの安定性と情動調整の機能不全が弁別されなかったのではないかと考えられる。

**無秩序・無方向型アタッチメント** アタッチメントの安定性と入所時点においては負の中程度の相関があり、退所時点においてはほとんど相関が見られなかった。また安全基地行動との間には入所時点・退所時点いずれにおいてもほとんど相関がみられなかったため、無秩序・無方向型アタッチメントの弁別的妥当性が本サンプルにおいては示唆されたと考える。

**反応性アタッチメント障害・脱抑制型対人交流障害** いずれについても、入所時点・退所時点を通して、アタッチメントの安定性との間に負の中程度以上の相関が見られたことから、本サンプルにおいては反応性アタッチメント障害・脱抑制型対人交流障害の弁別的妥当性が示唆されたと考える。

**保護者** サンプル数が非常に少ないため、ここでは時点ごとの相関に関する考察は行わない。

## (2) コメントを踏まえた改訂方針

寄せられた意見に基づく修正点を以下に挙げる。

第1に、養育体制についての情報を得る必要性が指摘された。小規模・中規模・大規模の違い、個別担当/クラス担当か、担当が記録だけでなく日常的に関わるか否か、担当一人当たりの人数比など



をおさえる質問紙票を作成する予定である。

第2に担当養育者が変化しているか、変化していないかを検討するために目的を説明して担当養育者のイニシャルを聞くこととした。

第3に、評定者を原則心理職としていたが、経験年数が低く判断に迷う場合は相談しながらの評定も可とすることとした。

第4に、入所時における「馴れている大人」が分からないという意見が複数寄せられたため、入所初期は「最初に受け入れを行った人」その後は「担当養育者や普段よく接する人」という注意書きを設けることとした。

第6に、月齢の低さによって行動が見られない場合と判断不可の区別が難しいという意見が寄せられたが、こちらについては「×」が月齢の低さによって行動が見られない場合、「判断不可」は行動が引き起こされるような場面がないため判断できない場合に○を付ける旨、強調して書くこととした。

第7に、指さし理解の項目間の違いの意図についてマニュアルに付け加えることとした。

以上を踏まえて改訂された発達票を付録3に添付した。

## VI. 限界と展望

平成 30 年度はアセスメントの試案と手引き・マニュアルを作成するとともに、2 回の試行実施を行い、改訂を行った（2 回目の改訂作業は 5 月中に終了予定である）。2 回の試行実施とヒアリングを通して、アセスメント票がより回答しやすいものとなったと考える。また、2 回目の調査においては再検査信頼性と基準関連妥当性の予備的な検討を行った。しかし、今回の発達票は信頼性や妥当性を十分に確認できているものではない。特に他のアセスメント実施者が行っても同じようになるのかという評定者間信頼性についても今後検討をする必要があるだろう。また妥当性に関しては、今回のサンプルは非常に限られていることから、今後さらに検討をしていく必要があるだろう。また、心理社会的発達に関しては今回の予備調査では領域間での関連を見るにとどまったが、参考にした発達検査や他の発達検査との関係を今後検討していくことで妥当性の確認を行う予定である。

またコメントからは一言で担当養育者といっても、必ずしも普段から個別的对象児に関わる担当者という意味ではない場合や、そもそも担当養育者がいない場合があることが窺われた。そこで、今後の本実施に向けて、子どもの発達に関わる現在の環境要因として a) 担当養育者の変わりやすさ b) 心理職の設置の有無 c) 研修の有無 d) 合同カンファレンスの有無 e) 人の出入りの激しさを中心に養育体制に関わる質問票を作成した上で、子どもの状態とのアセスメント票との関連を検討することとする。その際は、子どものアセスメント・シートの実施については入所時（一時保護も含める）と退所時と子どもの誕生日から半年ずつの時期に行うこととする。

## Ⅶ. 引用文献

- 青木豊・南山今日子・福榮太郎・宮戸美樹 (2014). アタッチメント行動チェックリスト Attachment Behavior Checklist: ABCL の開発に向けての予備的研究——児童養護施設におけるアタッチメントを評価するために—— 小児保健研究, 73, 790-797.
- 新たな社会的養育の在り方に関する検討会 (編) (2017). 新しい社会的養育ビジョン 厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11905000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Kateifukushika/0000173865.pdf>
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局 (2015). 児童養護施設入所児童等調査結果 (平成 25 年 2 月 1 日現在) <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000071187.html>
- 厚生労働省子ども家庭局 (2018). 「乳児院・児童養護施設の高機能化及び多機能化・機能転換、小規模化かつ地域分散化の進め方」について [http://www.zenyokyo.gr.jp/whatsnew/180807\\_notification3.pdf](http://www.zenyokyo.gr.jp/whatsnew/180807_notification3.pdf)
- 全国乳児福祉協議会 乳児院の研修体系具体化にむけた作業委員会 (編) (2016). 初任職員に向けた研修小冊子——乳児院の養育を担うスタートをきるために—— 社会福祉法人全国社旗福祉協議会 全国乳児福祉協議会
- 全国乳児福祉協議会 乳児院の将来ビジョン検討委員会 (編) (2012). 乳児院の将来ビジョン検討委員会報告書 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国乳児福祉協議会 <http://www.nyujiin.gr.jp/shiryo/vision.pdf>
- 本郷一夫 (編) (2015). 『子どもの理解と支援のための発達アセスメント』 有斐閣選書
- 増沢 高 (2016). 『事例で学ぶ社会的養護児童のアセスメント—子どもの視点で考え, 適切な支援を見いだすために』 明石書店

入所時		
<b>アセスメント票 D</b>		
2歳～4歳		
	領域	あり/なし
①	心理社会的発達	○
②	トラウマ	○
③	子どものSOSサイン	○
④	アタッチメント	○

\* 2～6歳用

このページは透け防止用のページです。  
ページをめくり、基本情報を記入してください。





社会性の発達に関する質問について、全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

(他者の心の理解の発達に関する質問に続きます。次のページへお進みください。)

I-c 発達(他者の心の理解)

ここでは、子どもが他者の視点に立って考えられるようになる発達を捉え、その前駆体と考えられている共同注意行動やふり遊びなども含めて把握します。項目をよく読み、観察を行った上で、○、△、×、P、? について当てはまるもの1つに○をしてください。

	みられる行動が	みられる行動が	みられる行動が	みられる行動が	判断不可	コメント・感想・疑問	
sc1	子どもが自分から、おもちゃなどを差し出して担当養育者やそのほかの大人に渡したり、取せてくれることがある	○	△	×	P	?	
sc2	担当養育者やそのほかの大人が子どもの持っているものを指さして、「チョウダイ」といって渡したり、見せてくれることがある	○	△	×	P	?	
sc3	担当養育者やそのほかの大人が「チョウダイ」と子どものものを指さすと、いったん見せたり、渡そうと差し出したりするが、担当養育者や大人をからかうように、わざとそのおもちゃをひっこめることがある	○	△	×	P	?	
sc4	担当養育者やそのほかの大人が子どもの見える範囲にある玩具などを指さすと、その方向をみる	○	△	×	P	?	
sc5	担当養育者やそのほかの大人が指さしをしない方向を見ると子どもがその方向をみる	○	△	×	P	?	
sc6	担当養育者やそのほかの大人が子どもの後ろにある玩具などを指さすとその方向をみる	○	△	×	P	?	
sc7	担当養育者やそのほかの大人が目たり、指さしたりしている方向を見て、そのあと離れるように担当養育者や大人の顔を見る	○	△	×	P	?	
sc8	子どもが欲しい「もの」があるとき、自分からそれを指さして担当養育者やそのほかの大人に要求することがある	○	△	×	P	?	
sc9	子どもが欲しい「もの」があるとき、子どもからそれを指さして要求した後にまた離れるように担当養育者やそのほかの大人の顔をみる	○	△	×	P	?	
sc10	何かに興味を持ったり、おどろいたりしたときに、それを担当養育者やそのほかの大人に伝えようと指さしをすることがある	○	△	×	P	?	
sc11	何かに興味をもったり、驚いたりしたときに、それを担当養育者やそのほかの大人に伝えようとして指さしを行ったり後に離れるように担当養育者や大人の顔を見る	○	△	×	P	?	
sc12	担当養育者やそのほかの大人が「○○はどこ？」と尋ねると指さしをすることがある	○	△	×	P	?	

(次のページにつづきます)



(他者の心の理解の発達 続き)

観察項目	現在 行 動 が	近 時 な 行 動 が	過 去 の 行 動 が	判 断 可 否	コメント・感想・疑問
sc13 誰かが指を刺つたり、お腹が痛いとき、その人を心配したり、いびきを見ることがある	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
sc14 誰かが指を刺つたり、お腹が痛いとき、その人を慰めたり、いたわるような行動をすることがある	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
sc15 特定の大人の仕事をまねる	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
sc16 担当養育者やその他の大人とごっこ遊びをする	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
sc17 簡単な言葉の意味が理解できる	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
sc18 意図をもって呼びかけた時に、呼んだ人の顔をしっかりと見る	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
sc19 大人が関心を示した音に気が付き、自分もその音を確認しようとするとする	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
sc20 人に合わせて距離を測ぶなどの話し方ができる	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
sc21 周囲の状況を理解して周りの大人に合わせて自分も静かになれる	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
sc22 過去の経験を感じ出して人と話ができる	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	

他者の心の理解の発達に関する質問について、全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

(情報発達の質問に続きます。次のページにお進ください。)

l-d 発達(情動発達)

ここでは、子どもが情動を快/不快という単純なものから、より複雑な嫉妬や誇り、恥ずかしさなどの様々な情動を発達させていく過程や、子どもが情動を理解したり、人の手を借りながら情動を調整したりしていく発達を捉えます。項目をよく読み、観察を行った上で、O, Δ, X, P, ? について当てはまるもの1つに○をしてください。

観察項目	現在 行 動 が	近 時 な 行 動 が	過 去 の 行 動 が	判 断 可 否	コメント・感想・疑問
e1 元氣な声でなく	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e2 きぶんのよいときにははここにしている	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e3 いろいろなる泣き声をだす(空襲・不愉快・苦痛の区別)	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e4 泣かずに声を出す(あーうーなど)	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e5 きゃーきゃーといったり、高笑いをしたり声を立てて笑う	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e6 顔に布をかぶせると不快を示す	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e7 何かを怖がる様子を見せる(例えば、暗闇や雷、動物など)	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e8 気に入らないことがあるとむずがって怒る	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e9 担当養育者の話し方で感情を聞き分ける	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e10 顔しみて怒ったかおがわかる	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e11 顔を拭くのを嫌がり、顔を背けたり手で拭いのけたりする	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e12 持っている玩具を取られると不快を表現したり泣いたりする	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e13 持っている玩具を取り上げると怒る	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e14 ねむたくないときに、自分のふとんで寝かされそうになると泣く	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e15 欲しいものを泣かずに指さして知らせる	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e16 何かを差し渡したときや裏めらめらした時に、裏だけではない、両手を使った、自分の取っ掛かたが成る行動を繰り返す	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	
e17 他児が担当養育者の膝に座ると怒って押しのけたりする	O Δ × P ?	O Δ × P ?	O Δ × P ?	?	

(次のページにつづきます)

(情動発達 続き)

	み現 ら れ る 動 が	み れ れ な い 動 が	み れ れ な い 動 が	み れ れ な い 動 が	み れ れ な い 動 が	判 断 可 否	コ メ ン ト ・ 感 想 ・ 疑 問
e18 ボール遊びの順番など欲しいものがあったても、言い聞かせれば我慢して待つ	O	△	×	×	P	?	
e19 他児と喧嘩をするや担当養育者に言いつけに来る	O	△	×	×	P	?	
e20 何か失敗したり、過失のある時に、そのことについて謝ったり、修正しようとするような謝罪感を働いている様子が見られる	O	△	×	×	P	?	
e21 鏡を見たり、ほめられたり、「開って」といわれると、てれるような様子がみせる	O	△	×	×	P	?	
e22 他児の玩具や物を欲しいがみせるような欲求をみせる	O	△	×	×	P	?	
e23 何か失敗したり、過失のある時に、相手から視線をせらしたり、顔を手で覆い隠したり、その場から後ずさった行動を見せる	O	△	×	×	P	?	

情動発達に関する質問について、全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

(自我発達の質問に続きます。次のページにお進みください。)

I-e 発達(自我発達)

ここでは、身体的な自分の認識、鏡に映った自分の理解、他者から注意を向けられる自分の理解、自己主張の発達とその調整の発達について捉えています。項目をよく読み、観察を行った上で、O、△、×、P、?について当てはまるもの1つに○をしてください。

	み現 ら れ る 動 が	み れ れ な い 動 が	み れ れ な い 動 が	み れ れ な い 動 が	判 断 可 否	コ メ ン ト ・ 感 想 ・ 疑 問
eg1 子どもが自分の手を開いたり、閉じたりして、自分の手を見つと見ている	O	△	×	×	P	?
eg2 自分の手や足をなめる	O	△	×	×	P	?
eg3 自分の体の部分を注意してみる	O	△	×	×	P	?
eg4 鏡に映った自分の顔に反応したり鏡の自分の自分とさわたりする	O	△	×	×	P	?
eg5 鏡に映った自分を見て笑いんだり、声を出したりする	O	△	×	×	P	?
eg6 鏡の中の自分に笑いかけたりお辞儀したりして遊ぶ	O	△	×	×	P	?
eg7 自分の名前がわかり、後ろから名前を聞いたら振り向く	O	△	×	×	P	?
eg8 玩具を他児と取り合う	O	△	×	×	P	?
eg9 何でも自分でやりたがる	O	△	×	×	P	?
eg10 「いや！」を連発して自己主張をする	O	△	×	×	P	?

自我発達に関する質問について、全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

心理社会的発達に関する質問は以上です。  
次のページに進み、説明文をよくお読みいただき、次の質問にお答えください。





全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

項目内容	1	2	3	4	5	6	コメント・感想・ 疑問
子どもが欲しいことを担当養育者がすぐにやらないと、まったくしてもらえないかのように振舞う。(ぐずったり、怒ったり、あきらめて他のことをしたりする。)	1	2	3	4	5	6	
担当養育者がよほど手伝おうとしただけでも、していることを邪魔されたかのように振舞う。	1	2	3	4	5	6	
担当養育者に何かして欲しいときに、行動で示したり言葉で頼んだりするのではなく、泣いたりぐずったりして訴える。	1	2	3	4	5	6	
担当養育者が、子どもの今としての活動を止めさせ、次の活動をすすまうと、すぐに機嫌が悪くなる。(たとえ、新しい活発な遊びの中で、たまたま、ひっかいたり、噛みつきたりして乱暴になる。(必ずしも、担当養育者を傷つけようというつもりはない)	1	2	3	4	5	6	
遊びの後、担当養育者の方へ戻ってきたとき、はつきりした理由も無いのにぐずることがある。	1	2	3	4	5	6	
担当養育者が接する時に、不自然にかたまることがある。	1	2	3	4	5	6	
担当養育者が接する時に、おびえることがある。	1	2	3	4	5	6	
担当養育者が接する時に、うつろな表情になったりがりとすること	1	2	3	4	5	6	
担当養育者が抱っこしようとする、のけるように身体をそらす	1	2	3	4	5	6	
担当養育者に向かいと戻つたら別の方向に行くなど、行動の方向性が定まらないことがある。	1	2	3	4	5	6	
苦痛なときでも、担当養育者に安心感を求めたに求めない。	1	2	3	4	5	6	
苦痛なときでも、担当養育者の求めたに反応しない。	1	2	3	4	5	6	
他者との対人交流や他者への情緒反応が乏しい。	1	2	3	4	5	6	
ボジティブな感情が乏しい。	1	2	3	4	5	6	
担当養育者との歩道の関わりにおいて、説明できない明らかないらだたしさ、怒しみ、または恐怖を表現する。	1	2	3	4	5	6	
見慣れない大人に近づいたり、交流することにはためらいがない。	1	2	3	4	5	6	
過度に馴れ馴れしい言辭的または身体的行動がある。	1	2	3	4	5	6	
慣れない状況でも、担当養育者を振り返って確認することがない。	1	2	3	4	5	6	
見慣れない大人にためらいなく進んでついて行こうとする。	1	2	3	4	5	6	



全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

--

入所時

\* 番号を振ってください

## アセスメント票 D

2歳～4歳

領域	あり・なし
① 心理社会的発達	○
② トラウマ	○
③ 子どものSOSサイン	○
④ アタッチメント	○

\* 2～6歳用



このページは透け防止用のページです。  
ページをめくり、基本情報を記入してください。

基本情報

記入日	20 年 月 日
記入者について	
職種 ※いずれかに○	心理・個別対応職員・FSW 保育士・看護師・児童指導員 里親支援専門相談員・その他( )
役職	役職名( )・特になし
性別	男 ・ 女
勤務形態	常勤 ・ 非常勤
乳児院経験年数	満 年
担当養育者について	
性別	男 ・ 女
担当になった時期	20 年 月

子どもの基本情報	
現在の年齢	才 か月 (1か月未満: 日) (修正月齢: 才 か月)
入所時の年齢	才 か月 (1か月未満: 日) (修正月齢: 才 か月)
性別 ※いずれかに○	男児 ・ 女児
身長・体重	身長 cm 体重 g (在胎週) 入所時 身長 cm 体重 kg/g 記入時 身長 cm 体重 kg/g
妊娠期のリスク	1 なし 2 あり→番号( )、その他( )
入所理由 ※当てはまるものすべてに○ ※主要なものに◎ 「入所児童養育施設調査」に基づく分類	9 家族の精神疾患 10 家族の知的障害 11 出産 12 出張・研修 13 冠婚葬祭 14 家族の疾病付き添い 15 児童自身の障害・疾病 16 虐待(種別に○をつけてください) 17 母未婚 その他( )
子どもの心身の状況 ※主要なものに○	1 健全 2 病虚弱児→番号( ) 3 障害児→番号( ) 4 被虐待児 5 その他( )

I-a

マニュアルの判断基準を一読した上で、項目をよく読み、観察を行った上で、○、△、×、P、?について当てはまるもの1つに○を付けてください。判断に迷った項目については、必ずマニュアルの判断基準を確認してください。特に※がついている項目は、判定後確認のためマニュアルを参照してください。項目は実施の月齢に対して低い/高い/月齢で適する項目も含まれていますが、すべての項目について回答してください。

項目	観察項目	判定	コメント・感想・疑問
a1	大人の顔をじっとみつめる	○ △ × P ?	
a2	泣いているときに大人が抱き上げると静まる	○ △ × P ?	
a3※	大人が笑いかけたり話しかけたりするとよく笑う	○ △ × P ?	
a4	大人を見ると自分から笑いかける	○ △ × P ?	
a5	大人があやすと泣き止む人が離れると泣く	○ △ × P ?	
a6※	大人が呼びかけると、その人の方に顔を向ける	○ △ × P ?	
a7	大人が傍らで歩くとき、歩いている人を目で追う	○ △ × P ?	
a8※	大人によってあやされると声を出して笑いかける	○ △ × P ?	
a9	大人に向かって声を出す	○ △ × P ?	
a10	知らない人が来た直後は、知らない人の顔をじっと見つめて表情が変わる	○ △ × P ?	
a11	大人が「はい/いいえ/はい/いいえ」をしてあやすと喜ぶ	○ △ × P ?	
a12	担当養育者と普段よく接する大人と他の人の区別はつく(例:泣いているときも担当養育者と同じ部屋の職員が抱っこしないときも担当養育者と区別しない大人と抱っこしている大人を区別しない場合は×)	○ △ × P ?	
a13	担当養育者と普段よく接する大人から手を差し出されると自分から体を乗り出す。ただし、慣れていない大人と慣れていない大人を区別しない場合は×。	○ △ × P ?	
a14	担当養育者と普段よく接する大人の姿が見えなくなると目をさし込んで見ると慣れていない大人と慣れていない大人を区別しない場合は×。	○ △ × P ?	
a15	抱いたときに抱いている担当養育者と普段よく接する大人の顔や服などを手探りする。	○ △ × P ?	

(注)「大人」とは慣れている人、慣れていない人、観察者、担当養育者を問わない大人のことです

(I-a 続き)

	み現 ら れ る 動 が	み時 ら れ る 動 が	み行 れ な い	み通 い な い	判 断 可 不 可	コメント・感想・疑問
a16 ※	○	△	×	P	?	
a17 ※	○	△	×	P	?	
a18	○	△	×	P	?	
a19	○	△	×	P	?	
a20	○	△	×	P	?	
a21	○	△	×	P	?	
a22	○	△	×	P	?	
a23	○	△	×	P	?	

I-aの質問について、全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

I-b

マニュアルの別添資料を一緒にした上で、項目をよく読み、観察を行った上で、○、△、×、P、?について当てはまるもの1つに○をしてください。判断に迷った項目については、必ずマニュアルの判断基準を参照してください。特に※がついている項目は、判定基準のたぬマニュアルを参照してください。項目は実際の月齢に対して低い月齢で通過する項目も含まれています。すべての項目について回答してください。

	み現 ら れ る 動 が	み時 ら れ る 動 が	み行 れ な い	み通 い な い	判 断 可 不 可	コメント・感想・疑問
b1	○	△	×	P	?	
b2※	○	△	×	P	?	
b3	○	△	×	P	?	
b4	○	△	×	P	?	
b5※	○	△	×	P	?	
b6	○	△	×	P	?	
b7	○	△	×	P	?	
b8	○	△	×	P	?	
b9	○	△	×	P	?	
b10	○	△	×	P	?	
b11	○	△	×	P	?	
b12	○	△	×	P	?	
b13	○	△	×	P	?	
b14	○	△	×	P	?	
b15	○	△	×	P	?	
b16	○	△	×	P	?	
※	○	△	×	P	?	
※	○	△	×	P	?	
b18	○	△	×	P	?	
b19	○	△	×	P	?	
※	○	△	×	P	?	

(注) 「大人」とは横れている人、横れていない人、観察者、担当保育者を含む大人のことです

(1-b. 続き)

I-bの質問について、全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

I-c

マニュアルの判断基準を一読した上で、項目をよく読み、観察を行った上で、O、A、X、P、?について当てはまるもの1つに○をしてください。判断に迷った項目については、必ずマニュアルの判断基準を確認してください。特に※がついている項目は、判定基準のたまたまマニュアルを参照してください。項目は実際の月齢に対して低い/高い月齢で通過する項目も含まれていますが、すべての項目について回答してください。

	現在 みられる 行動が	みられ ない 行動が	みられ ない 行動が	判断 不可	コメント・感想・疑問	
c1	O	△	X	P	?	子どもが自分から、おもちゃなどを差し出して大人に渡したり、見せてくれることがある(慣れている大人であるか否かに関わらず、だれかにそのような行動を示せば○とする)
c2	O	△	X	P	?	大人が子どもの持っているものを指さして「チョウダグダグ」とか「ア」とか言ったり、見せてくれることがある(慣れている大人であるか否かに関わらず、だれかにそのような行動を示せば○とする)
c3※	O	△	X	P	?	大人が「チョウダグ」と子どものものを指さすと、いつたか用件たり、差し出す出したりするが、大人をからかうように、おもしろいとおもちゃをひっこめることがある(慣れている大人であるか否かに関わらず、そのような行動を示せば○とする)
c4※	O	△	X	P	?	大人が子どもの見える範囲にある玩具などを指さすと、その方向をみる(慣れている大人であるか否かに関わらず、指さした方向をみれば○とする)
c5※	O	△	X	P	?	大人が子どもの後ろにある玩具などを指さすとその方向をみる(慣れている大人であるか否かに関わらず、指さした方向をみれば○とする)
c6※	O	△	X	P	?	大人が見たり、指をさしたりしている方向を見て、そのあと顔が向くように大人の顔を見る(慣れている大人であるか否かに関わらず、大人の顔を認識する行動が見られれば○とする。ただし、確かめるように大人の顔を認識しなければ×とする)
c7※	O	△	X	P	?	子どもが欲しい「もの」があるとき、自分からそれを指さして大人に要求することがある(慣れている大人であるか否かに関わらず、指さしを用いた要求があれば○とする)



マニュアルの判断基準を一読した上で、項目をよく読み、観察を行った上で、○、△、×、P、?について当てはまるものつに○をしてください。判断に迷う項目については、必ずマニュアルの判断基準を確認してください。特に※がついている項目は、判定後履歴のためマニュアルを参照してください。項目は実際の月齢に当てはまり月齢で通過する項目も含まれていますが、すべての項目について回答してください。

	み現 ら れ る 動 が	み時 ら れ る 動 が	み行 いた ま が 今 行 は 見 ら れ	判 断 不 可	コメント・感想・疑問
d1 大きな声でなく	○	△	×	P	?
d2 きぶんのよいときにはここにこしている	○	△	×	P	?
d3 いろいろな泣き声をだす(空腹・不愉快・苦痛の区別)	○	△	×	P	?
d4 泣かずに声を出す(あーうーなど)	○	△	×	P	?
d5 きやーきやーといったり、高笑いをしたり、声を立てて笑う	○	△	×	P	?
d6 顔に布をかぶせると不快を示す	○	△	×	P	?
d7 何かを怖がる様子をみせる(例えば、暗闇や音、動物など)	○	△	×	P	?
d8 気に入らないことがあるとむずがって怒る	○	△	×	P	?
d9※ 担当養育者や看護員よく接する大人の顔し方で感情を鑑き分ける	○	△	×	P	?
d10 ※ 顔しみて怒ったかおがわかる	○	△	×	P	?
d11 顔を拭くのを嫌がり、顔を背けたり手で払いのけたりする	○	△	×	P	?
d12 持っている玩具を取り上げると怒る	○	△	×	P	?
d13 おむたくないうちに、自分のふとんで蹴かされそうになると泣く	○	△	×	P	?
d14 ※ 欲しいものを泣かずに指さして知らせる	○	△	×	P	?
d15 何かを成し遂げたときや褒められた時に、喜ぶだけでなく、相手を罵ったり、自分の成し遂げた出来や行動、褒められたものを何匹も繰り返して、相手の注意を引こうとする	○	△	×	P	?
d16 他児が担当養育者の膝に座ると怒って押しのけたりする	○	△	×	P	?

	み現 ら れ る 動 が	み時 ら れ る 動 が	み行 いた ま が 今 行 は 見 ら れ	判 断 不 可	コメント・感想・疑問
d17 ボール遊びの順番など欲しいものがあるが、言い聞かせれば我慢して待つ	○	△	×	P	?
d18 ※ 他児と順番をずらすと担当養育者や看護員よく接する大人に言いつけに来る。ただし泣いて断えるのは×。	○	△	×	P	?
d19 何か失敗したり、過失があったりする時に、罪悪感を隠している様子がみられる(例、そのことについて謝ったり、修復しようとしたりする)	○	△	×	P	?
d20 ※ 物を落としたり、ぼめられたり、「断って」といわれると、嫌な顔をする	○	△	×	P	?
d21 ※ 他児の玩具や持物を欲しがらうやうなうらやましそうなをみせる	○	△	×	P	?
d22 ※ 何か失敗したり、過失のある時に、恥ずかしく感じていない様子がみられる(例、相手から言葉をせられたり、罵詈雑言を言われたり、その場から逃げ去ったり、顔をしかめたり過失・失敗から距離をとる)	○	△	×	P	?

I-dの質問について、全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください







IV 【担当養育者とのアタッチメント】

以下の項目は、対象児のアタッチメント行動についてお尋ねするものです。  
 あてはまる数字に、○をつけてください。できるだけどちらでもない以外で○をつけてください。

	当てはまる数字に○をつけてください	コメント・感想・質問
	1 2 3 4 5	
1	1 2 3 4 5	
2	1 2 3 4 5	
3	1 2 3 4 5	
4	1 2 3 4 5	
5	1 2 3 4 5	
6	1 2 3 4 5	
7	1 2 3 4 5	
8	1 2 3 4 5	
9	1 2 3 4 5	
10	1 2 3 4 5	
11	1 2 3 4 5	
12	1 2 3 4 5	
13	1 2 3 4 5	
14	1 2 3 4 5	
15	1 2 3 4 5	
16	1 2 3 4 5	
17	1 2 3 4 5	

	当てはまる数字に○をつけてください	コメント・感想・質問
	1 2 3 4 5	
18	1 2 3 4 5	
19	1 2 3 4 5	
20	1 2 3 4 5	
21	1 2 3 4 5	
22	1 2 3 4 5	
23	1 2 3 4 5	
24	1 2 3 4 5	
25	1 2 3 4 5	
26	1 2 3 4 5	
27	1 2 3 4 5	
28	1 2 3 4 5	
29	1 2 3 4 5	
30	1 2 3 4 5	
31	1 2 3 4 5	
32	1 2 3 4 5	
33	1 2 3 4 5	
34	1 2 3 4 5	
35	1 2 3 4 5	
36	1 2 3 4 5	
37	1 2 3 4 5	
38	1 2 3 4 5	

IV)について全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

V 【保護者とのアタッチメント】

以下の項目は、対象児のアタッチメント行動についてお尋ねするものです。あてはまる数字に、○をつけてください。できるだけどちらでもない以外で○をつけてください。

保護者との面会等、交流はありますか

1. 全くなく、アタッチメントについて判定できません
2. 交流がある → 以下項目について判定は「判定不可」に○をつけてください。

項目内容	1	2	3	4	5	6	判定不可	コメント・感想・疑問
1 保護者と遊んでいるとき、保護者の居場所を知っていて、保護者を呼んだり、保護者が居場所を変えたりすると気がつく。								
2 探察のための安全基盤として保護者を利用するパターンをばっさり示す。遊びに出かけ、また保護者の方戻って、近くで遊び、次に再び出かけるというようなことを繰り返す。								
3 恐がりたり機嫌が悪くなっても、保護者が抱くと、すぐに泣くのをやめ落ち着く。								
4 「～しなさい」と命令として言われなくても、「～したら」と提案として言われただけでも、すぐに保護者の指示に従える。								
5 保護者がついてくるように言う、そのようにする。(おさげについて従わない場合は考慮に入れない)								
6 保護者が「大丈夫よ」とか「騒がしいよ」等と言って安心させるとはじめ用心したり怖がっていた物に近づいたり遊んだりする。								
7 何かな恐ろしく見えたり危なせうな状況にいると、保護者の表情を見てどうするか決める。								
8 保護者がかなり遠くに行くと、後を追って保護者の近くで遊びを続ける。(呼んだり、運んでやる必要はなく、また遊びをやめたり機嫌が悪くなることもない)								
9 自分から保護者と物を分けあったり、保護者が言う、貸してくれたりする。								
10 保護者が扉に入っていくと、自分の方から大きな突きを降かべて保護者に降りかけたり、手を握ったり、おもちゃを見せたりする。								
11 新しくおもちゃになる物を見つけると、保護者にも見せたりいなくて、持ってきたり、離れたところから保護者に見せる。								
12 保護者が促すと、はじめて会った人に喜んで話したり、おもちゃを見せたり、自分の得意なことをやってみせたりする。								
13 保護者が「ちようだい」と言ったり「持ってきて」と言うところのようにしてくる。(おさげについて従わない場合は考えに入れない)								
14 保護者が抱き上げたり、抱きしめたり、可愛がると言ひ、自分からもそれを要求する。								
15 保護者が子どもに何かを頼むと、保護者が何をして欲しいかすぐわかる。(従うか従わないかは問題としない)								
16 すぐに保護者に腹を立てる。								
17 保護者に対してわがままで解が短い、自分の望むことを保護者がすぐくしないといとぐずぐずいったり頑固に要求し続ける。								

項目内容	1	2	3	4	5	6	観 望 可 不 可	注 意 点	コ メ ン ト ・ 感 想 ・ 質 問
18 保護者に抱かれているとき、降ろして欲しいと合図するで降ろすと、ぐずったり、またすぐ抱いて欲しいと要求する。	1	2	3	4	5	6	n		
19 子どもが欲しいことを保護者がすぐにやらないと、またたくしてもらえないかのように揺る。 (ぐずったり、怒ったり、あきらかに他のことをしたがる。)	1	2	3	4	5	6	n		
20 保護者がよよと手振おうとしただけでも、していることを邪屬されたかのように揺る。	1	2	3	4	5	6	n		
21 保護者に何かして欲しいときに、行動で示したり言葉で頼んだりするのはなく、泣いたりぐずったりして訴える。	1	2	3	4	5	6	n		
22 保護者が、子どもの今している活動を止めさせ、次の活動をさせようとする、すぐに機嫌が悪くなる。(たとえば、新しい活動が子どものいつも喜ぶものであった場合)	1	2	3	4	5	6	n		
23 活発な遊びの中で、たたいたり、ひつかいたり、噛みついたりして乱暴になる。(必ずしも、保護者を傷つけようというつもりはない)	1	2	3	4	5	6	n		
24 遊びの後、保護者の方へ戻ってきたとき、はっきりした理由も無いのにぐずることがある。	1	2	3	4	5	6	n		
25 保護者が泣くときに、不自然にかたまることがある。	1	2	3	4	5	6	n		
26 保護者が泣くときに、おびえることがある。	1	2	3	4	5	6	n		
27 保護者が泣くときに、うつらな表情になったりぼーっとすること	1	2	3	4	5	6	n		
28 保護者が抱っこしようとする、のけるように身体をそらす。	1	2	3	4	5	6	n		
29 保護者に向かいと戻ったら別の方向に行くなど、行動の方向性が定まらないことがある。	1	2	3	4	5	6	n		
30 苦痛なときでも、保護者に安心感を求めたに求めない。	1	2	3	4	5	6	n		
31 苦痛なときでも、保護者の求めにむかっただに反応しない。	1	2	3	4	5	6	n		
32 他者との対人交流や他者への情緒反応が乏しい。	1	2	3	4	5	6	n		
33 ボジティブな感情が乏しい。	1	2	3	4	5	6	n		
34 保護者との音程の関わりにおいて、説明できない明らかないらだたしさ、悲しみ、または恐怖を表現する。	1	2	3	4	5	6	n		
35 見慣れない大人に近づいたり、交流することにためらいがない。	1	2	3	4	5	6	n		
36 適度に馴れ馴れしい言動または身体的行動がある。	1	2	3	4	5	6	n		
37 慣れない状況でも、保護者を振り返って離脱することがない。	1	2	3	4	5	6	n		
38 見慣れない大人にためらいなく進んでついて行くこととする。	1	2	3	4	5	6	n		

Vについて全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

入所時

\* 番号を振ってください

## アセスメント票 A

0 か月～ 6か月未満



	領域	あり・なし
I	心理社会的発達	○
II	トラウマ	× *メモ
III	子どものSOSサイン	○
IV	アタッチメント	× *メモ

このページは透け防止用のページです。  
ページをめくり、基本情報を記入してください。

基本情報

記入日	20	年	月	日
記入者について				
職種 ※いずれかの□に○	心理・個別対応職員・FSW 保育士・看護師・児童指導員 里親支援専門相談員・その他( )			
役職	役職名( )・特になし			
性別	男	・	女	
記入者の イニシャル <sup>(注1)</sup>	・			
勤務形態	常勤	・	非常勤	
乳児院経験年数	満		年	

注1) 複数時点間でアセスメント実施者および担当養育者の変更の有無を確認するためイニシャルの記入をお願いしております。上記の目的以外でイニシャルを使用することはありません。

子どもの基本情報

現在の年齢	才	か月	(1か月未満: 日) (修正月齢: 才 か月)
入所時の年齢	才	か月	(1か月未満: 日) (修正月齢: 才 か月)
性別 ※いずれかに○	男児 ・ 女児		
身長・体重	出生時 身長	cm	体重 g (在胎週)
	入所時 身長	cm	体重 kg/g
	記入時 身長	cm	体重 kg/g
妊娠期のリスク	1 なし 2 あり→番号( )、その他( )		
入所理由 ※当てはまるものをすべてに○ ※主要なもの□に◎ 「入所児童福祉状況調査」に基づく分類	1	家族の死亡	9 家族の精神疾患
	2	離別別居	10 家族の知的障害
	3	家族の受刑(拘留)	11 出産
	4	不法滞在	12 出張・研修
	5	家族の就労	13 冠婚葬祭
	6	経済的困難	14 家族の疾病付き添い
	7	虐待(種別に○をつけてください)	15 児童自身の障害・疾病
	8	→身体・心理・性的・ネグレクト 家族の疾病	16 母未婚 17 その他( )
子どもの 心身の状況 ※主要なもの□に○	1 健全	4 被虐待児	
	2 病虚弱児→番号( )	5 その他	
	3 障害児→番号( )	( )	

担当養育者について	
担当養育者の有無 ※いずれか1つに○	いる (決まっている) ・ いない (決まっていない)
職種 ※いずれか1つに○	個別対応職員・保育士・看護師・児童指導員・その他( )
担当養育者の性別	男 ・ 女
担当養育者のイニシャル <sup>(注1)</sup>	・
勤務形態	常勤 ・ 非常勤
乳児院経験年数	満 年
担当になつた時期	20 年 月

注1) 複数時点間でアセスメント実施者および担当養育者の変更の有無を確認するためにイニシャルの記入をお願いしております。上記の目的以外でイニシャルを使用することはありません。

担当養育者と対象児の関わりについて 担当養育者(注2)が以下の項目の世話をどの程度やっているか、ここ2週間のことについて担当養育者に聞き取りを行い、最もあてはまるもの1つに○を付けてください。									
	全く行わない	割合程度( ) ほとんど行わない( ) 2	割合程度( ) 4割程度( ) 4	割合程度( ) 6割程度( ) 6	割合程度( ) 8割程度( ) 8	ほとんど行う( ) 8割	全て行う		
着替え介助	1	2	3	4	5	6	7		
排泄介助	1	2	3	4	5	6	7		
食事介助(朝・昼・晩)	1	2	3	4	5	6	7		
沐浴・入浴介助	1	2	3	4	5	6	7		
寝かしつけ	1	2	3	4	5	6	7		
遊び(室内)	1	2	3	4	5	6	7		
遊び(室外)	1	2	3	4	5	6	7		
通院	1	2	3	4	5	6	7		
対象児の記録	1	2	3	4	5	6	7		
個別的な関わり	1	2	3	4	5	6	7		
その他 ( )	1	2	3	4	5	6	7		
その他 ( )	1	2	3	4	5	6	7		
その他 ( )	1	2	3	4	5	6	7		

注2) 担当養育者がいないまたは未定の場合は、担当養育者となる可能性が高い職員や日常的に一番よく関わる職員を対象に回答を行って下さい。

マニュアルの判断基準を一般化した上で、項目をよく読み、観察を行った上で、○、△、×、P、?について当てはまるものつに○を付けてください。判断に迷う項目については、必ずマニュアルの判断基準を確認してください。特に※がついている項目は、判定後確認のためマニュアルを参照してください。項目は実施の月齢に対して低い/高い/月齢で通過する項目も含まれていますが、すべての項目について回答してください。

	み現 ら れ る 動 が	み時 ら れ る 動 が	み行 れ る 動 が	み通 い た 去 に 今 行 は 動 み ら れ ら	判 断 不 可	コメント・感想・疑問
a1	大人の顔をじっとみつめる。	○	△	×	P	?
a2	泣いているときに大人が抱き上げると鎮まる。	○	△	×	P	?
a3※	大人が笑いかけたり話しかけたりするとよく笑う。	○	△	×	P	?
a4	大人を見ると自分から笑いかける。	○	△	×	P	?
a5	大人があやすと泣き止む人が離れると泣く。	○	△	×	P	?
a6※	大人が呼びかけると、その人の方を顔を向ける。	○	△	×	P	?
a7	大人が離れて歩くとき、抱いている人を目で追う。	○	△	×	P	?
a8※	大人によってあやされると声を出して笑いかける。	○	△	×	P	?
a9	大人に向かって声を出す。	○	△	×	P	?
a10	知らない人が来た直後は、知らない人の顔をじっと見つめて表情が変わる。	○	△	×	P	?
a11	大人が「いないいないばあ」をしてあやすと喜ぶ。	○	△	×	P	?
a12	担当養育者と普段よく接する大人と、他の人の区別はつく(例:泣いているときも担当養育者や同じ部屋の職員が抱かないと泣き止まない)。ただし、離れていない大人と離れている大人を区別しない場合は×。	○	△	×	P	?
a13	担当養育者や普段よく接する大人から手を差し出される※ 離れている大人を区別しない場合は×。	○	△	×	P	?
a14	担当養育者や普段よく接する大人の姿が見えなくなるとぞき込んで接する。ただし、離れていない大人と離れている大人を区別しない場合は×。	○	△	×	P	?
a15	抱いたときと抱いていない担当養育者や普段よく接する大人の顔や服などを手探りする。	○	△	×	P	?

注1) 「大人」とは離れている大人、離れていない大人、観察者、担当養育者を問わない大人のことです。  
注2) 「離れている大人」とはアセスメント実施時点で対象児がよく会っている大人を意味します。対象児の置かれた環境によって変化する場合もあり、例えば入所時点においては保護者や最初に保護を行なった人が子どもによって離れている大人ということになるでしょう。

	み現 ら れ る 動 が	み時 ら れ る 動 が	み行 れ る 動 が	み通 い た 去 に 今 行 は 動 み ら れ ら	判 断 不 可	コメント・感想・疑問
a16	※ 要求があるときなど、声を出して担当養育者や普段よく接する大人の注意を引く(手をさしてほじがる)。	○	△	×	P	?
a17	※ よく抱いてくれる人を見ると自分から身を乗り出す。	○	△	×	P	?
a18	担当養育者や普段よく接する大人の姿が見えなくなると、不安そうなおぼろげな顔が見られる。ただし、離れていない大人と離れている大人を区別しない場合は×。	○	△	×	P	?
a19	担当養育者や普段よく接する大人がいなくなるとすると後追いをする。ただし、離れていない大人と離れている大人を区別しない場合は×。	○	△	×	P	?
a20	人見知りをし、知らない人に対して身近な人に対するのと異なり、怖がり、取っつきがたりする。	○	△	×	P	?
a21	困難なことや自分ではできないことに遭遇すると担当養育者や普段よく接する大人に頼んで助けを求める。	○	△	×	P	?
a22	※ ことができず、担当養育者や普段よく接する大人から容易に離れて遊ぶことができない。	○	△	×	P	?

注1) 「大人」とは離れている大人、離れていない大人、観察者、担当養育者を問わない大人のことです。  
注2) 「離れている大人」とはアセスメント実施時点で対象児がよく会っている大人を意味します。対象児の置かれた環境によって変化する場合もあり、例えば入所時点においては保護者や最初に保護を行なった人が子どもによって離れている大人ということになるでしょう。

I-aの質問について、全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください



1-b

マニュアルの判断基準を一覧した上で、項目をよく読み、観察を行った上で、○、△、×、P、?について当てはまるもの1つに○を付けてください。判断に迷う項目については、必ずマニュアルの判断基準を確認してください。特に※がついている項目は、判定後補綴のためマニュアルを参照してください。項目は実際の月齢に対して低い/高い月齢で通過する項目も含まれています。すべての項目について回答してください。

	み現 ら行 る動 が	み時 れ行 る動 が	みれ た去 に合 行部 が部 み部 らみ れら	判 断 可 否	コメント・感想・疑問		
b1	ボールを投げると投げ返す。	○	△	×	P	?	
b2※	「だめ」と注意をしたらよっと手を引つめて言った人の顔を見る。	○	△	×	P	?	
b3	バイバイする。	○	△	×	P	?	
b4	小さい子を見ると関心をもって近づいて触りたがる。	○	△	×	P	?	
b5※	担当業者や車路よく接する大人を見ながらいたずらをする。	○	△	×	P	?	
b6	かんたんな手伝いをする。	○	△	×	P	?	
b7	年下の子供の世話を焼きたがる(抱っこしようしたり、食べさせようとしたりする)。	○	△	×	P	?	
b8	子どもの中に隠さずして触れよく遊ぶ。	○	△	×	P	?	
b9	「だめ」と注意をしたらかえってよどけてわざと繰り返す。	○	△	×	P	?	
b10	子どもと手をつなぐことができる。	○	△	×	P	?	
b11	他児と抱きかかっことをする。	○	△	×	P	?	
b12	子どもの姿をくっついて触る。	○	△	×	P	?	
b13	遊び友達の名前が言えるようになる。	○	△	×	P	?	
b14	電話ごっこができる。	○	△	×	P	?	
b15	よどけて、大人をかからかたりする(例、大人を出さないように、戸を押さえたたりする)。	○	△	×	P	?	
b16	順番や交代の意味が分かり、玩具を貸したり少しの間待たたりできる。	○	△	×	P	?	
b17	他児と距離をとり担当業者や車路よく接する大人に言いつけに来る。	○	△	×	P	?	
b18	「こうしていい?」と許可を求める。	○	△	×	P	?	
b19	子ども同士が一輪になつて遊ぶことができる。	○	△	×	P	?	
※							

(注)「大人」とは馴染んでいる人、馴染っていない人、観察者、担当業者を問わない大人のことです

(1-b, 続き)

I-7の質問について、全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

マニュアルの判断基準を一覧した上で、項目をよく読み、観察を行った上で、○、△、×、P、? について当てはまるもの1つに○を付けてください。判断に迷う項目については、必ずマニュアルの判断基準を確認してください。特に※ががついている項目は、判定後確認のためマニュアルを参照してください。項目は実際の月齢に対して低い/高い月齢で通過する項目も含まれていますが、すべての項目について回答してください。

	外見 ら れ る 動 が	み ま ら れ る 動 が	み ま ら れ る 動 が	み ま ら れ る 動 が	判 断 可 否	コ メ ン ト ・ 感 想 ・ 疑 問
c1		○ △ × P ?				
c2		○ △ × P ?				
c3※		○ △ × P ?				
c4※		○ △ × P ?				
c5※		○ △ × P ?				
c6※		○ △ × P ?				
c7※		○ △ × P ?				

	外見 ら れ る 動 が	み ま ら れ る 動 が	み ま ら れ る 動 が	み ま ら れ る 動 が	判 断 可 否	コ メ ン ト ・ 感 想 ・ 疑 問
c8※		○ △ × P ?				
c9※		○ △ × P ?				
c10※		○ △ × P ?				
c11※		○ △ × P ?				
c12※		○ △ × P ?				
c13		○ △ × P ?				
c14		○ △ × P ?				
c15		○ △ × P ?				
c16		○ △ × P ?				
c17		○ △ × P ?				
c18		○ △ × P ?				
c19		○ △ × P ?				
c20		○ △ × P ?				

I-eの質問について、全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

I-d

マニュアルの判断基準を一読した上で、項目をよく読み、観察を行った上で、O、A、X、P、?について当てはまるもの1つに○を付けてください。判断に迷う項目については、必ずマニュアルの判断基準を確認してください。特に迷っている項目は、判定後履歴のためマニュアルを参照してください。項目は実際の月齢に対して低い/高い月齢で通過する項目も含まれていますが、すべての項目について回答してください。

	み 現 在 の 動 作	み 時 々 行 な れ る 動 作	み 行 な れ な い 動 作	判 断 可 否	コ メ ン ト ・ 感 想 ・ 疑 問	
d1	大きな声で泣く。	O	△	X	P	?
d2	気分のよいときにはここにこしている。	O	△	X	P	?
d3	いろいろ泣き声を出す(空腹・不愉快・苦痛の区別)。	O	△	X	P	?
d4	泣かずに声を出す(あーうーなど)。	O	△	X	P	?
d5	きききーといたり、高笑いをしたり、声を立てて笑う。	O	△	X	P	?
d6	顔に布をかぶせると不快を示す。	O	△	X	P	?
d7	何かを怖がる様子をみせる(例えば、閉扉や雷、動物など)。	O	△	X	P	?
d8	気に入らないことがあると、むずがって怒る。	O	△	X	P	?
d9	担当保育者や普段よく接する大人の話し方で感情を離さ分ける。	O	△	X	P	?
d10	※ 親しみと怒った顔が区別できる。	O	△	X	P	?
d11	顔を拭くのを嫌がり、顔を背けたり手で払いのけたりする。	O	△	X	P	?
d12	持っている玩具を取り上げると怒る。	O	△	X	P	?
d13	話さないときには、自分のふとんで寝かされそうになる	O	△	X	P	?
d14	※ 欲しいものを泣かずに指さして知らせる。	O	△	X	P	?
d15	何かを成し遂げたときや褒められた時に、喜ぶだけでなく、相手を罵ったり、自分の成し遂げた成果や行動、褒められたものを何故も嫌がり泣いて、相手の注意を引こうとする。	O	△	X	P	?
d16	※ 他児が担当保育者の膝に座ると怒って押しのけたりする。	O	△	X	P	?



**メモ（トラウマ）**

- ・お気づきの点がある場合に記入して下さい。（質問項目にない行動でも、以下の説明のような行動が見られる場合など。）
- ・トラウマとは、一般的に「個人が持っている対処法では、対処することができないような圧倒的な体験をすることによって起こる、著しい心理的ストレス（心的外傷）」と言われています。家庭での被害体験やDV目撃などがトラウマ体験になり得ると考えられますし、乳児院入所によって生じた生活環境の変化が子どもへの大きな負担となっていることも考えられます。特に乳幼児期は体験や感情を自分自身で処理する力には限界があり、トラウマを体験した子どもは、さまざまなトラウマ反応を示します。
- 例) 些細なことでも怖がる。
- 例) 特定の状況で急に泣き出したりボーッとすることがある。

Ⅲ お子さんに以下のような状況が見られますか？  
 できるだけ「1～」でお答えください。年齢的にまだできない等判定が困難な場合は「n」につけて下さい。  
 また、具体例や特記等ありましたら、項目後の【 】にご記入ください。

	な い	ま ま あ る	よ く あ る	あ ら ま た に 困 難	判 定 困 難	コ メ ン ト ・ 感 想 ・ 疑 問
1 身体の緊張が強い/ゆるい等、力の入れ具合に心配がある。【 】	1	2	3	4	5	n
2 身体に触れることを嫌うなど、感覚過敏がみられる。【 】	1	2	3	4	5	n
3 不器用さや運動発達のおこらなさ（アンバランス）がみられる。【 】	1	2	3	4	5	n
4 すぐ体質を崩したり、怪我をするなど、体質面で心配な点がある。【 】	1	2	3	4	5	n
5 体重が増えない/減少するなど、発育面で心配な点がある。【 】	1	2	3	4	5	n
6 授乳・摂食で心配な点がある。【 】	1	2	3	4	5	n
7 寝付けない、眠りが強い、夜驚など、睡眠に心配な点がある。【 】	1	2	3	4	5	n
8 便が出にくかったり、1月前にそぐわない遅尿・遺棄があるなど排便面で心配な点がある。【 】	1	2	3	4	5	n
9 その他、生活習慣で心配な点がある。【 】	1	2	3	4	5	n
10 言葉の発達・表出など、コミュニケーションの発達で心配な点がある。【 】	1	2	3	4	5	n
11 感情の起伏が激しかったり無表情など、感情表出で心配な点がある。【 】	1	2	3	4	5	n
12 興奮時に大人の声かけが入らなかつたり、自分で行動を止められないことがある。【 】	1	2	3	4	5	n
13 上半身を前後にゆするなど、反復的な行動が目立つ。【 】	1	2	3	4	5	n
14 わけもなくいらしたり、不機嫌なことが多い。【 】	1	2	3	4	5	n
15 強制的なことが起きたり、自分の思い通りにいかないこととペニソックを起す。【 】	1	2	3	4	5	n
16 刺激への反応が過剰に敏感/敏感など、外的刺激への反応で心配な点がある。【 】	1	2	3	4	5	n
17 注意された時に激しく泣く/立ち戻すなど、人への反応で心配な点がある。【 】	1	2	3	4	5	n
18 自己刺激行動や自傷行動など、通常子どもが見えないような行動が見られる。【 】	1	2	3	4	5	n
19 恐怖や不安が外に表れない/突発的に示すなど、不安の表出で心配な点がある。【 】	1	2	3	4	5	n
20 他者からの呼びかけに反応しないことがある。【 】	1	2	3	4	5	n



### メモ（保護者に対するアタッチメント）

・お気づきの点がある場合に記入して下さい。（質問項目にない行動でも、以下の説明のような行動が見られる場合や、全く見られず心配な場合など。）

・アタッチメントとは、子どもが不安なときに子どもにとって重要な大人にくっつくことで安心を取り戻すといった情緒的絆のことをいいます。乳幼児期はまだ特定の人物との他の人を区別していない場合もありますが、関わる大人に対してアタッチメントの萌芽となる行動（あやすと笑う、自分から大人と目を合わせる等）が出てきます。次第に特定の人の関わりを求めたり願うような行動が出てきます。

例) 何が不安なことや怖いことがあったときに、保護者の方を見て泣いたり、手を伸ばす／不安なときでも保護者を見て泣いたり、しがみついたりしない。

例) 泣いていても保護者が抱くと泣き止む／泣き止まない／おびえる。

例) 保護者があやすと喜ぶ／反応がない／おびえる。

入所継続・退所時

入所時と同じ番号を振ってください

## アセスメント票 D

2歳～6歳



	領域	あり・なし
①	心理社会的発達	○
②	トラウマ	○
③	子どものSOSサイン	○
④	アタッチメント	○

\* 2歳～6歳用



このページは透け防止用のページです。  
ページをめくり、基本情報を記入してください。

基本情報

記入日	20 年 月 日
記入者について	
職種 ※いずれかに○	心理・個別対応職員・FSW 保育士・看護師・児童指導員 里親支援専門相談員・その他( )
役職	役職名( )・特になし
性別	男 ・ 女
記入者の イニシャル <sup>(注1)</sup>	・
勤務形態	常勤 ・ 非常勤
乳児院経験年数	満 年

注1)複数時間間でアセスメント実施者および担当養育者の変更の有無を確認するためにイニシャルの記入をお願いします。上記の目的以外でイニシャルを使用することはありません。

子どもの基本情報			
子どもの措置状況 ※いずれかに○	退所	入所 継続	その他( )
記入時の年齢	才 か月	才 か月	(修正月齢: 才 か月)
性別 ※いずれかに○	男児	女児	
身長・体重	退所時 (記入時)	身長 cm	体重 kg/g
子どもの 心身の状況 ※主要なものを□に○	1 健全	4 被虐待児	
	2 病虚弱児→番号( )	5 その他	
	3 障害児→番号( )	( )	
退所理由 ※いずれかに○ ※入所中の場合は空欄 ※入所児童実態調査に基づ く分類	1 家庭復帰(親元)		
	2 家庭復帰(親戚)		
	3 里親委託(ファミリーホーム含む)		
	4 養子縁組		
	5 児童養護施設移管		
	6 知的障害児施設移管		
	7 肢体不自由児施設移管		
	8 母子生活支援施設入所		
	9 死亡		
	10 その他( )		

担当養育者について	
担当養育者の有無 ※いずれかに○	いる (決まっている) ・ いない (決まっている)
職種 ※いずれかに○	個別対応職員・保育士・看護師・児童指導員・その他 ( )
担当養育者の性別	男 ・ 女
担当養育者のイニシャル <sup>(注1)</sup>	・
勤務形態	常勤 ・ 非常勤
乳児院経験年数	満 年
担当になった時期	20 年 月

注1) 概数時点間でアセスメント実施者および担当養育者の変更の有無を確認するためにイニシャルの記入をお願いしております。上記の目的以外でイニシャルを使用することはありません。

担当養育者と対象児の関わりについて 担当養育者(注2)が以下の項目の世話をどの程度やっているか、この期間のことについて担当養育者に聞き取りを行い、最もあてはまるもの1つに○を付けてください。									
	全く行わない	割合(程度)とど 行わない(2)	割合(程度)とど 行わない(4)	割合(程度)とど 行わない(3)	割合(程度)とど 行わない(4)	割合(程度)とど 行わない(5)	割合(程度)とど 行わない(6)	割合(程度)とど 行わない(8)	全て行う
着替え介助	1	2	3	4	5	6	7		
排泄介助	1	2	3	4	5	6	7		
食事介助(朝・昼・晩)	1	2	3	4	5	6	7		
沐浴・入浴介助	1	2	3	4	5	6	7		
寝かしつけ	1	2	3	4	5	6	7		
遊び(室内)	1	2	3	4	5	6	7		
遊び(室外)	1	2	3	4	5	6	7		
通院	1	2	3	4	5	6	7		
対象児の記録	1	2	3	4	5	6	7		
個別的な関わり	1	2	3	4	5	6	7		
その他 ( )	1	2	3	4	5	6	7		
その他 ( )	1	2	3	4	5	6	7		
その他 ( )	1	2	3	4	5	6	7		

注2) 担当養育者がいないまたは未定の場合は、担当養育者となる可能性が高い職員や日常的に一番よく関わる職員を対象に回答を行ってください。

マニュアルの判断基準を一般化した上で、項目をよく読み、観察を行った上で、O、△、×、P、?について当てはまるものつに○を付けてください。判断に迷う項目については、必ずマニュアルの判断基準を確認してください。特に※がついている項目は、判定後確認のためマニュアルを参照してください。項目は実際の月齢に対して低い/高い月齢で通過する項目も含まれていますが、すべての項目について回答してください。

	み現 ら れ る 動 が	み時 ら れ る 動 が	み行 れ る 動 が	み通 いた が 今 は 動 み ら れ	判 断 不 可	コ メ ン ト ・ 感 想 ・ 疑 問
a1	大人の顔をじっとみつめる。	O	△	×	P	?
a2	泣いているときに大人が抱き上げると鎮まる。	O	△	×	P	?
a3	大人が笑いかけたり話しかけたりするとよく笑う。	O	△	×	P	?
a4	大人を見ると自分から笑いかける。	O	△	×	P	?
a5	大人があやすと泣き止むわが人が離れると泣く。	O	△	×	P	?
a6	大人が呼びかけると、その人の方を顔を向ける。	O	△	×	P	?
a7	大人が離れて歩くとき、抱いている人を目で追う。	O	△	×	P	?
a8	大人によってあやされると声を出して笑いかける。	O	△	×	P	?
a9	大人に向かって声を出す。	O	△	×	P	?
a10	知らない人が来た直後は、知らない人の顔をじっと見つめて表情が変わる。	O	△	×	P	?
a11	大人が「いないいないばあ」をしてあやすと喜ぶ。	O	△	×	P	?
a12	担当養育者と普段よく接する大人と、他の人の区別はつく(例:泣いているときも担当養育者や同じ部屋の職員が抱かないと泣き止まない)。ただし、離れていない大人と離れている大人を区別しない場合は×。	O	△	×	P	?
a13	担当養育者と普段よく接する大人から手を差し出される※ ※ 離れている大人を区別しない場合は×。	O	△	×	P	?
a14	担当養育者と普段よく接する大人の姿が見えなくなるとぞき込んで接する。ただし、離れていない大人と離れている大人を区別しない場合は×。	O	△	×	P	?
a15	抱いたときと抱いていない担当養育者と普段よく接する大人の顔や服などを手探りする。	O	△	×	P	?

注1) 「大人」とは離れている大人、離れていない大人、観察者、担当養育者を問わない大人のことです。  
注2) 「離れている大人」とはアセスメント実施時点で対象児がよく会っている大人を意味します。対象児の置かれた環境によって変化するものであり、例えば入所時点においては保護者や最初に保護を行なった人が子どもによって離れている大人ということになるでしょう。

	み現 ら れ る 動 が	み時 ら れ る 動 が	み行 れ る 動 が	み通 いた が 今 は 動 み ら れ	判 断 不 可	コ メ ン ト ・ 感 想 ・ 疑 問
a16	※ 要求があるときなど、声を出して担当養育者と普段よく接する大人の注意を引く(手をさしてほじがる)。	O	△	×	P	?
a17	※ よく抱いてくれる人を見ると自分から身を乗り出す。	O	△	×	P	?
a18	担当養育者と普段よく接する大人の姿が見えなくなると、不安そうなおぼろげな顔が見られる。ただし、離れていない大人と離れている大人を区別しない場合は×。	O	△	×	P	?
a19	担当養育者と普段よく接する大人がいなくなると、追いついて離れていく大人を区別しない場合は×。	O	△	×	P	?
a20	人見知りをし、知らない人に対して身近な人に対するのと異なり、怖がり、取っつきがたりする。	O	△	×	P	?
a21	困難なことや自分ではできないことに遭遇すると担当養育者と普段よく接する大人に頼んで助けを求める。	O	△	×	P	?
a22	※ 担当養育者と普段よく接する大人から容易に離れて遊ぶことができない。	O	△	×	P	?

注1) 「大人」とは離れている大人、離れていない大人、観察者、担当養育者を問わない大人のことです。  
注2) 「離れている大人」とはアセスメント実施時点で対象児がよく会っている大人を意味します。対象児の置かれた環境によって変化するものであり、例えば入所時点においては保護者や最初に保護を行なった人が子どもによって離れている大人ということになるでしょう。

I-aの質問について、全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

1-b

マニュアルの判断基準を一般化した上で、項目をよく読み、観察を行った上で、○、△、×、P、?について当てはまるもの1つに○を付けてください。判断に迷う項目については、必ずマニュアルの判断基準を確認してください。特に※がついている項目は、判定後確認のためマニュアルを参照してください。項目は実際の月齢に対して低い/高い月齢で通過する項目も含まれています。すべての項目について回答してください。

	み現 ら行 る動 が	み時 れ行 る動 が	み行 れ行 る動 が	なれ通 いた去 かに 合符 な部 らみ れら	判 断 可 否	コメント・感想・疑問	
b1	ボールを投げると投げ返す。	○	△	×	P	?	
b2※	「だめ」と注意をしたらよっと手を引つ込めて言った人の顔を見る。	○	△	×	P	?	
b3	バイバイする。	○	△	×	P	?	
b4	小さい子を見ると関心をもって近づいて触りたがる。	○	△	×	P	?	
b5※	担当養育者や母親よく接する大人を見ながらいたずらをする。	○	△	×	P	?	
b6	かんたんな手伝いをする。	○	△	×	P	?	
b7	年下の子供の世話を焼きたがる(抱っこしようとしたり、食べさせようとしたりする)。	○	△	×	P	?	
b8	子どもの中に隠ざって触れよく遊ぶ。	○	△	×	P	?	
b9	「だめ」と注意をしたらかえってよどけてわざと繰り返す。	○	△	×	P	?	
b10	子どもと手をつなぐことができる。	○	△	×	P	?	
b11	他児と抱きかかっことをする。	○	△	×	P	?	
b12	子どもの影をくつついて歩く。	○	△	×	P	?	
b13	遊び友達の名前が言えるようになる。	○	△	×	P	?	
b14	電話ごっこができる。	○	△	×	P	?	
b15	よどけて、大人をかからかたりする(例、大人を出さないように、戸を押さえたりする)。	○	△	×	P	?	
b16	順番や交代の意味が分かり、玩具を貸したり少しの間待たたりできる。	○	△	×	P	?	
b17	他児と距離をとり担当養育者や母親よく接する大人に言いつけに来る。	○	△	×	P	?	
b18	「こうしていい?」と許可を求める。	○	△	×	P	?	
b19	子ども同士が一輪になつて遊ぶことができる。	○	△	×	P	?	
※							

(注)「大人」とは馴染んでいる人、馴染っていない人、観察者、担当養育者を問わない大人のことです

(1-b, 続き)

I-7の質問について、全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

マニュアルの判断基準を一覧した上で、項目をよく読み、観察を行った上で、○、△、×、P、? について当てはまるもの1つに○を付けてください。判断に迷う項目については、必ずマニュアルの判断基準を確認してください。特に※がつけられている項目は、判定後確認のためマニュアルを参照してください。項目は実際の月齢に対して低い/高い月齢で通過する項目も含まれていますが、すべての項目について回答してください。

	外見 ら れ る 動 が	み ま ら れ る 動 が	み ま ら れ る 動 が	み ま ら れ る 動 が	判 断 可 否	コ メ ン ト ・ 感 想 ・ 疑 問
c1		○ △ × P ?				
c2		○ △ × P ?				
c3※		○ △ × P ?				
c4※		○ △ × P ?				
c5※		○ △ × P ?				
c6※		○ △ × P ?				
c7※		○ △ × P ?				

	外見 ら れ る 動 が	み ま ら れ る 動 が	み ま ら れ る 動 が	み ま ら れ る 動 が	判 断 可 否	コ メ ン ト ・ 感 想 ・ 疑 問
c8※		○ △ × P ?				
c9※		○ △ × P ?				
c10※		○ △ × P ?				
c11※		○ △ × P ?				
c12※		○ △ × P ?				
c13		○ △ × P ?				
c14		○ △ × P ?				
c15		○ △ × P ?				
c16		○ △ × P ?				
c17		○ △ × P ?				
c18		○ △ × P ?				
c19		○ △ × P ?				
c20		○ △ × P ?				

I-eの質問について、全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

I-d

マニュアルの判断基準を一読した上で、項目をよく読み、観察を行った上で、O、A、X、P、?について当てはまるもの1つに○を付けてください。判断に迷う項目については、必ずマニュアルの判断基準を確認してください。特に迷っている項目は、判定後履歴のためマニュアルを参照してください。項目は実際の月齢に対して低い/高い月齢で通過する項目も含まれていますが、すべての項目について回答してください。

	み 現 在 の 動 作	み 時 々 行 な れ る 動 作	み 行 な れ な い 動 作	判 断 可 否	コ メ ン ト ・ 感 想 ・ 疑 問	
d1	大きな声で泣く。	O	△	X	P	?
d2	気分のよいときにはここにこしている。	O	△	X	P	?
d3	いろいろ泣き声を出す(空腹・不愉快・苦痛の区別)。	O	△	X	P	?
d4	泣かずに声を出す(あーうーなど)。	O	△	X	P	?
d5	ききーきゃーといったり、高笑いをしたり、声を立てて笑う。	O	△	X	P	?
d6	顔に布をかぶせると不快を示す。	O	△	X	P	?
d7	何かを怖がる様子をみせる(例えば、閉扉や雷、動物など)。	O	△	X	P	?
d8	気に入らないことがあると、むずがって怒る。	O	△	X	P	?
d9※	担当養育者や普段よく接する大人の話し方で感情を離さ分ける。	O	△	X	P	?
d10	※ 親しみと怒った顔が区別できる。	O	△	X	P	?
d11	顔を拭くのを嫌がり、顔を背けたり手で払いのけたりする。	O	△	X	P	?
d12	持っている玩具を取り上げると怒る。	O	△	X	P	?
d13	話さないときには、自分のふとんで寝かされそうになる	O	△	X	P	?
d14	※ 欲しいものを泣かずに指さして知らせる。	O	△	X	P	?
d15	何かを成し遂げたときや褒められた時に、喜ぶだけでなく、相手を罵ったり、自分の成し遂げた成果や行動、褒められたものを何故も嫌み返して、相手の注意を引こうとする。	O	△	X	P	?
d16	他児が担当養育者の膝に座ると怒って押しのけたりする。	O	△	X	P	?







	ない	たま	ある	よく	あつ	明	コメント・感
		に	る	く	の	な	想・疑問
		あ	あ	あ	あ	国	
		る	る	る	る	際	
21	密着をしようとしない。【	1	2	3	4	5	n
	出の不一致が見られる。】						
22	相差しをしない。【	1	2	3	4	5	n
	】						
23	共同注意が見られない。【	1	2	3	4	5	n
	】						
24	自分台わない。【	1	2	3	4	5	n
	】						
25	家族との関係において、不適切な行動が見られる。【	1	2	3	4	5	n
	】						
26	遊びを見つけていかないなど、探検意欲の発露が見られる。【	1	2	3	4	5	n
	】						
27	子ども同士の間で不適切な行動が見られる。【	1	2	3	4	5	n
	】						
28	二つこ遊びが苦手である。【	1	2	3	4	5	n
	】						
29	非活動的で、床に寝そべるなど無気力である。【	1	2	3	4	5	n
	】						
30	かんもく、自衛行為など、行動化が見られる。【	1	2	3	4	5	n
	】						
31	チツクや抜毛、突寄性離脱など、身体化が見られる。【	1	2	3	4	5	n
	】						

Ⅲについて全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください。

Ⅳ-1 【担当養育者とのアタッチメント】

以下の項目は、対象児のアタッチメント行動についてお尋ねするものです。あてはまる数字に、○をつけてください。できるだけ「○」以外で○をつけてください。「担当養育者がいない」または「担当養育者未定」の場合は、担当養育者となる可能性が高い職員や日常的に一番よく関わる職員と子どものやり取りの様子を対象に回答を行ってください。

	当てはまらない	当てはまる	当てはまる	当てはまる	当てはまる	コメント・感想・疑問
	1	2	3	4	5	
項目内容						
施設で遊んでいるとき、担当養育者の居場所を知っていて、担当養育者を呼んだり、担当養育者が居場所を変えたりすると気がつく。	1	2	3	4	5	
探検のための安全基準として担当養育者を利用するペカーンをはつきり示す。遊びに出かけ、また担当養育者の片側で、近くで遊び、次に再び出かけるというようことを繰り返す。	1	2	3	4	5	
恐がりな様子が見られるが、担当養育者が抱くと、すぐに泣くのをやめ落ち着く。	1	2	3	4	5	
「～しないで」と命令として言われなくても、「～したら」と提案として言われただけでも、すぐに担当養育者の指示に従える。	1	2	3	4	5	
担当養育者がついてくるように言うのと、そのようにする。(ふざけていて従わない場合は考慮に入れない)	1	2	3	4	5	
担当養育者が「大丈夫よ」とか「怪しくないよ」等と言って安心させるとはじめ用心したり怖がっていた物に近づいたり遊んだりする。	1	2	3	4	5	
何か恐ろしく見えたり危なそうな状況にいると、担当養育者の表情を見てどうするか決める。	1	2	3	4	5	
担当養育者がかなり遠くに行くとき、後を追って担当養育者の近くで遊びを続ける。(呼んだり、連れてやる必要はなく、また遊びをやめたり独断がなくなることもない)	1	2	3	4	5	
自分から担当養育者と物を分けあったり、担当養育者が言うのと、貸してくれたりする。	1	2	3	4	5	
担当養育者が部屋に入ってくると、自分の方から大きな笑みを浮かべて担当養育者に語りかけたり、手を握ったり、玩具を見せたりする。	1	2	3	4	5	
新しく玩具になる物を見つけると、担当養育者にも見せたりしたく、持ってきたり、離れたところから担当養育者に知らせる。	1	2	3	4	5	
担当養育者が促すと、はじめに会った人に喜んで話したり、玩具を見せたり、自分のできることを見せたりする。	1	2	3	4	5	
担当養育者が「ちようだい」と言ったり「持ってきて」と言うとき、そのよらにしてくれる。(ふざけていて従わない場合は考えに入れない)	1	2	3	4	5	
担当養育者が抱き上げたり、抱きしめたり、可愛がること喜び、自分からそれらを要求する。	1	2	3	4	5	
担当養育者が子どもに何かを頼むと、担当養育者が何をしたいかすぐにわかる。(従うか従わないかは問題としない)	1	2	3	4	5	
すぐに担当養育者に腰を立てる。	1	2	3	4	5	

17	担当養育者に対しておがままで気が短かい、自分の望むことを担当養育者がすぐにはしないといくすぐいったり頻りに要求し続ける。	1	2	3	4	5
----	--	---	---	---	---	---

	項目内容	1	2	3	4	5	コメント・感想・質問
18	保護者に抱かれているとき、降ろして欲しいと合図するので降ろすと、ぐずったり、またすぐ抱いて欲しいと要求する。	1	2	3	4	5	
19	子どもがして欲しいことを保護者がすぐにはやらないうと、まったくしてもらえないかのように振舞う。(ぐずったり、怒ったり、あくまで曲のこをしたりする。)	1	2	3	4	5	
20	保護者がちよつと手伝おうとしただけでも、していることを邪魔されたかのように振舞う。	1	2	3	4	5	
21	保護者に何かして欲しいときに、行動で示したり言葉で頼んだりするのでなく、泣いたりぐずったりして断える。	1	2	3	4	5	
22	保護者が、子どもの命を合して活動を止めさせ、次の活動をさよらうとすると、すぐに機嫌が悪くなる。(たとえ、新しい活動が子どものいっつも喜ぶものであった場合も)	1	2	3	4	5	
23	活遊な遊びの中で、たたいたり、ひつかいたり、噛みついたりして乱暴になる。(必ずしも、保護者を傷つけようというつもりはない)	1	2	3	4	5	
24	遊びの後、保護者の方へ戻ってきたとき、はつきりした理由も無いのにぐずることがある。	1	2	3	4	5	
25	保護者が接する時に、不自然にかたまることがある。	1	2	3	4	5	
26	担当養育者が接する時に、おびえることがある。	1	2	3	4	5	
27	担当養育者が接する時に、うつろな表情になったりポーッとすることがある。	1	2	3	4	5	
28	担当養育者が抱っこしようとすると、のけぞるように身体をそらす。	1	2	3	4	5	
29	担当養育者に向かうかと思うたら別の方向に行くなど、行動の方向性が定まらないことがある。	1	2	3	4	5	
30	苦痛などきでも、担当養育者を含めあらゆる人に安心感をめつたに求めない。	1	2	3	4	5	
31	苦痛などきでも、担当養育者を含めあらゆる人の求めにめつたに反応しない。	1	2	3	4	5	
32	他者との対人交流や他者への情緒反応が乏しい。	1	2	3	4	5	
33	ポジティブな感情が乏しい。	1	2	3	4	5	
34	担当養育者を含めあらゆる人との善悪の関わりにおいて、説明できない明らかならだたしさ、悲しみ、または恐怖を表現する。	1	2	3	4	5	
35	見慣れない大人に近づいたり、交流することにとためらいがない。	1	2	3	4	5	
36	過度に馴れ馴れしい言葉的または身体的行動がある。	1	2	3	4	5	
37	慣れない状況でも、担当養育者を振り返って確認することがない。	1	2	3	4	5	
38	見慣れない大人にためらいなく進んでついて行こうとする。	1	2	3	4	5	

IV-1 について全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

IV-2 【保護者とのアタッチメント】

以下の項目は、対象児のアタッチメント行動についてお書きいただけます。あてはまる数字に、○をつけてください。できるだけどちらでもない以外で○をつけてください。

保護者との面会等、交流はありますか

1. 全くなく、アタッチメントについて判定できません → IV-1については実施なし
2. 交流がある → 以下の項目について判定してください。項目によっては実施なし

項目内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	判定不可	コメント・感想・疑問
1 保護者と遊んでいるとき、保護者の居場所を知っていて、保護者を呼んだり、保護者が居場所を変えたりすると気がつく。																			
2 探察のための安全基盤として保護者を利用するパターンをばっさり示す。遊びに出かけ、また保護者の方戻って、近くで遊び、次に再び出かけるというようなことを繰り返す。																			
3 恐がりたり機嫌が悪くなっても、保護者が抱くと、すぐに泣くのをやめ落ち着く。																			
4 「～しなさい」と命令として言われなくても、「～したら」と提案として言われただけでも、すぐに保護者の指示に従える。																			
5 保護者がついてくるように言う、そのようにする。(おさげについて従わない場合は考慮に入れない)																			
6 保護者が「大丈夫よ」や「寝かしなさいよ」等と書くと安心させることはじめ用心したり怖がっていた物に近づいたり遊んだりする。																			
7 何か恐ろしく見えたり危なせうな状況にいると、保護者の表情を見てどうするか決める。																			
8 保護者がかなり遠くに行くと、後を追って保護者の近くで遊びを続ける。(呼んだり、運んでやる必要はなく、また遊びをやめたり機嫌が悪くなることもない)																			
9 自分から保護者と物を分けあったり、保護者が言う、貸してくれたりする。																			
10 保護者が部屋に入ってくると、自分の方から大きな声か聲かすべて保護者に降りかけたり、手を握ったり、玩具を見せたりする。																			
11 新しく玩具になる物を見つげると、保護者にも見せたいと、手で持ってきたり、離れたところから保護者に見せる。																			
12 保護者が促すと、はじめて会った人に喜んで話したり、玩具を見せたり、自分のできることをやってみせたりする。																			
13 保護者が「ちようだい」と言ったり「持ってきて」と言うとき、そのようにしてくれる。(おさげについて従わない場合は考えに入れない)																			
14 保護者が抱き上げたり、抱きしめたり、可愛がると言ひ、自分からもそれを要求する。																			
15 保護者が子どもに何かを頼むと、保護者が何をして欲しいかすぐにおわる。(従うか従わないかは問題としない)																			
16 すぐに保護者に腹を立てる。																			
17 保護者に対してわがままで解が短い、自分の望むことを保護者がすぐにしなさいとぐずぐずいったり頑固に要求し続ける。																			

W-2について全体を通してのコメント・感想・疑問などがあれば以下の欄にお書きください

項目内容	1	2	3	4	5	6	観 望 可 な あ ら な い	コ メ ン ト ・ 感 想 ・ 疑 問
18 保護者に抱かれているとき、降ろして欲しいと合図するで降ろすと、ぐすつたり、またすぐ抱いて欲しいと要求する。	1	2	3	4	5	6	n	
19 子どもが欲しいことを保護者がすぐにやらないと、またたくしくしてもらえないかのように揺る。 (ぐすつたり、怒ったり、あきらかに他のことをしたがる)	1	2	3	4	5	6	n	
20 保護者がちよと手振おうとしただけでも、していることを邪魔されたかのように揺る。	1	2	3	4	5	6	n	
21 保護者に抱かれて欲しいときに、行動で示したり言葉で頼んだりするのはなく、泣いたりぐすつたりして訴える。	1	2	3	4	5	6	n	
22 保護者が、子どもの今している活動を止めさせ、次の活動をさせようとする、すぐに機嫌が悪くなる。(たとえば、新しい活動が子どものいつも喜ぶものであった場合)	1	2	3	4	5	6	n	
23 活発な遊びの中で、たたいたり、ひつかいたり、噛みついたりして乱暴になる。(必ずしも、保護者を傷つけようというつもりはない)	1	2	3	4	5	6	n	
24 遊びの後、保護者の方へ戻ってきたとき、はっきりした理由も無いにぐすつたりすることがある。	1	2	3	4	5	6	n	
25 保護者が揺る時に、不自然にかたまることがある。	1	2	3	4	5	6	n	
26 保護者が揺る時に、おびえることがある。	1	2	3	4	5	6	n	
27 保護者が揺る時に、うつらな表情になったりぼーっとすること	1	2	3	4	5	6	n	
28 保護者が抱っこしようとする、のげぞるようになり身をぞらす。	1	2	3	4	5	6	n	
29 保護者に向かいと戻ったら別の方向に行くなど、行動の方向性が定まらないことがある。	1	2	3	4	5	6	n	
30 苦痛などでも、保護者を含めたらゆる人に安心感をわめつたに求めない。	1	2	3	4	5	6	n	
31 苦痛などでも、保護者を含めたらゆる人の求めにあつたに反応しない。	1	2	3	4	5	6	n	
32 他者との対人交流や他者への情緒反応が乏しい。	1	2	3	4	5	6	n	
33 ポジティブな感情が乏しい。	1	2	3	4	5	6	n	
34 保護者を含めたらゆる人の言葉の関わりにおいて、説明できない明らかならだらしさ、悲しみ、または恐怖を表現する。	1	2	3	4	5	6	n	
35 見慣れない大人に近づいたり、交流することにためらいがない。	1	2	3	4	5	6	n	
36 適度に馴れ馴れしい言動または身体的行動がある。	1	2	3	4	5	6	n	
37 慣れない状況でも、保護者を振り返って離脱することがない。	1	2	3	4	5	6	n	
38 見慣れない大人にためらいなく進んでついて行くこととする。	1	2	3	4	5	6	n	

平成30年度研究報告書

乳児院養育の可能性と課題を探る  
－現代発達科学的視座からの検証－

令和1年10月15日発行

発行 社会福祉法人 横浜博萌会  
子どもの虹情報研修センター  
(日本虐待・思春期問題情報研修センター)

編集 子どもの虹情報研修センター  
〒245-0062 横浜市戸塚区汲沢町983番地  
TEL. 045-871-8011 FAX. 045-871-8091  
mail : info@crc-japan.net  
URL : <http://www.crc-japan.net>

編集 研究代表者 遠藤 利彦  
共同研究者 横川 哲  
都留 和光  
三宅 愛  
平田 悠里  
南山今日子  
平田ルリ子

印刷 (有)創文社 TEL. 045-716-0018



